商工大臣八田嘉明

司法大臣鹽野季彦

拓務大臣八田嘉明

内閣總理大臣男爵平沼騏一郎殿

日本標準規格 B 4 森納

鑛業法中左ノ通改正ス

第十四條中「第八章」ヲ「第九章」ニ改ム

第四十一條中「第七十三條」ノ下ニ「若ハ第七十四條ノ四第三項」ヲ加フ

第五章ヲ第六章トシ以下順次繰下ゲ

第四章ノ次ニ左ノ一章ヲ加フ

第五章　鑛害ノ賠償

第七十四條ノ二　鑛物掘採ノ爲ノ土地ノ掘鑿、坑水廢水ノ放流、捨石鑛滓ノ堆積又ハ鑛煙ノ排出ニ因リテ他人ニ損害ヲ與ヘタルトキハ損害發生ノ時ニ於ケル當者、損害發生ノ時鑛業權消滅セル場合ニ於テハ鑛業權消滅ノ時ニ於ケル當者、其ノ損害ヲ賠償スル責ニ任ス

前項ノ場合ニ於テ損害カ二以上ノ鑛區ノ鑛業權者ノ作業ニ因リ

テ生シタルトキハ各鑛業權者ハ連帶シテ損害ヲ賠償スル義務ヲ
負フ損害カ二以上ノ鑛區ノ鑛業權者ノ作業ノ中孰レニ因リテ生
シタルカヲ知ルコト能ハサルトキ亦同シ
前二項ノ場合ニ於テ損害發生ノ後鑛業權者其ノ鑛業權ヲ讓渡シ
タルトキハ損害發生ノ時ノ鑛業權者及其ノ後ノ鑛業權者ハ連帶
シテ損害ヲ賠償スル義務ヲ負フ
前三項ノ賠償ニ付テハ共同鑛業權者ノ義務ハ連帶トス
第七十四條ノ三　前條第二項ノ連帶債務者相互ノ間ニ於テ各自
ノ負擔部分ハ相均シキモノト推定ス
前條第三項ノ讓受ケタル者賠償ノ義務ヲ履行シタルトキハ損害發生
ノ時ノ鑛業權者ニ對シ償還ノ請求ヲ爲スコトヲ得
第七十四條ノ四　石炭ヲ目的トスル鑛業權者ハ命令ノ定ムル所ニ
依リ石炭掘採ノ爲ノ土地ノ掘鑿ニ因リテ生スヘキ損害ノ賠償ヲ
擔保スル爲其ノ掘採シタル石炭ノ數量ニ應シ毎年一定額ノ金錢

ヲ供託スヘシ但シ金錢ニ代ヘ其ノ金額ニ相當スル國債ヲ供託ス

石炭ヲ目的トスル鑛業權者第一項ノ供託ヲ怠リタルトキハ主務大臣ハ鑛業ノ停止ヲ命スルコトヲ得

第七十四條ノ五　石炭掘採ノ爲ノ土地ノ掘鑿ニ因リテ損害ヲ被リタル者ハ其ノ損害賠償請求權ニ關シ前條第一項ノ供託物ニ付他ノ債權者ニ先チ辨濟ヲ受クルノ權利ヲ有ス

前項ノ權利ノ實行ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

ヲ譲渡シタルトキハ第七十四條ノ四第一項ノ供託物ニ對スル權利ハ譲受人ニ移轉ス

第七十四條ノ七　石炭ヲ目的トスル鑛業權者又ハ鑛業權者タリシ者ハ左ノ場合ニ限リ命令ノ定ムル所ニ依リ第七十四條ノ四第一項ノ供託物ヲ取戻スコトヲ得

一　石炭掘採ノ爲ノ土地ノ掘鑿ニ因リテ生シタル損害ヲ賠償シ

タルトキ
二、鑛業權消滅後十箇年ヲ經ルモ石炭掘採ノ爲ノ土地ノ掘鑿ニ
因ル損害ノ生セサルトキ
第七十四條ノ八　損害ノ賠償ハ金錢ヲ以テ之ヲ爲ス但シ賠償金額
ニ比シ著シク多額ノ費用ヲ要セスシテ原狀ノ回復ヲ爲スコトヲ
得ルトキハ被害者ハ原狀ノ回復ヲ請求スルコトヲ得
賠償義務者ノ申立アリタル場合ニ於テ裁判所適當ト認ムル
トキハ前項ノ規定ニ拘ラス金錢ノ賠償ニ代ヘ原狀ノ回復ヲ命ス
ルコトヲ得
第七十四條ノ九　損害ノ發生ニ關シ被害者ニ事由アリタルトキハ
裁判所ハ損害賠償ノ責任及範圍ヲ定ムルニ付之ヲ斟酌スルコトノ
發生ニ關シ天災其ノ他ノ不可抗力ノ競合シタルトキ亦同シ
第七十四條ノ十　損害賠償ノ額カ豫定セラレタル場合ニ於テ其ノ
額カ著シク不當ナルトキハ當事者ハ之カ增減ヲ請求スルコトヲ

得

第七十四條ノ十一　損害賠償請求權ハ被害者カ損害及賠償義務者ヲ知リタル時ヨリ三箇年間之ヲ行ハサルトキハ時效ニ因リテ消滅ス損害發生ノ時ヨリ二十箇年ヲ經過シタルトキ亦同シ

前項ノ期間ハ進行中ノ損害ニ付テハ其ノ進行ノ止ミタル時ヨリ之ヲ起算ス

第七十四條ノ十二　鑛害ノ賠償ニ關シ爭議ノ生シタルトキハ當事者ハ損害ノ發生地ヲ管轄スル地方裁判所又ハ當事者ノ合意ニ依リテ定ムル地方裁判所ニ調停ノ申立ヲ爲スコトヲ得

小作調停法第二條、第六條、第十條、第十二條乃至第十五條、第二十一條、第二十二條、第二十四條乃至第二十八條、第二十九條乃十七條乃至第四十條及第四十八條、借地借家調停法第四條ノ二、第十條、第十八條及第二十九條乃至第三十一條、金錢債務臨時調停法第六條第一項第四項、商事調停法第一條第二項第三項、

商工省

第四條及第五條竝人事調停法第六條及第十條ノ規定ハ前項ノ調停ニ之ヲ準用ス

第七十四條ノ十四　裁判所又ハ調停委員會必要アリト認ムルトキハ關係官廳其ノ他適當ト認ムル者ニ對シ意見ヲ求メ又ハ調査ヲ囑託スルコトヲ得

關係官廳ハ裁判所又ハ調停委員會ニ對シ意見ヲ述フルコトヲ得

第七十四條ノ十五　本章ノ規定ハ鑛業ニ從事スル者ノ業務上ノ負傷、疾病及死亡ニ關シテハ之ヲ適用セス

第九十六條　第十條第三項若ハ第十一條ノ規定ニ違背シタル者又ハ第七十二條、第七十四條第一項若ハ第七十四條ノ四第三項ノ命令ニ從ハサル者ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

附則

日本標準規格　B4　小筆納

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第五章ノ改定ハ第七十四條ノ四乃至第七十四條ノ七ノ規定ヲ除クノ外本法施行前ニ爲シタル作業ニ因リテ本法施行後ニ生ジタル損害ニ付テモ之ヲ適用ス

本法施行前ニ生ジタル損害ニシテ補償金、手當金、見舞金其ノ他何等ノ名義ヲ以テスルヲ問ハズ被害者ガ其ノ賠償ヲ受ケズ又ハ賠償ヲ受ケタルモ其ノ額ガ著シク少額ナリシモノニ付テハ被害者ハ賠償又ハ其ノ增額ヲ請求スルコトヲ得

第七十四條ノ二第一項、第二項、第四項、第七十四條ノ三第一項、第七十四條ノ八、第七十四條ノ九、第七十四條ノ十一乃至第七十四條ノ十五ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ適用ス但シ第七十四條ノ十一第一項ノ三箇年ノ期間ハ被害者ガ本法施行前ニ損害及賠償義務者ヲ知リタルトキハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

商工省

鑛業法中改正法律案理由書

鑛業ノ活況ニ伴ヒ各種鑛害ノ發生漸ク多キヲ加ヘントスルノ時之ガ賠償ニ關シ適當法制ヲ設クルハ刻下ノ急務ニシテ鑛業權者ノ賠償責任及其ノ範圍ヲ明確ニシ、特ニ石炭鑛區ノ鑛業權者ニ村テハ將來ノ賠償ニ備ヘシムル制度ヲ樹テ、尚鑛害賠ケ以テ問題ノ圓滿系法中改正ヲ要スルモノアリ是レ本案ヲ提出スル所以ナリ

商工省

参照

●鑛業法

明治三十八年三月八日
法律第四十五號

改正　明治四〇年第四一號、四三年第一〇號、四四年第九號
大正一三年第二二號
昭和二年第三六號、六年第六五號、九年第三七號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル鑛業法ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

（總理、農商務、大藏大臣副署）

鑛業法

第一章　總則

第一條　本法ニ於テ鑛業ト稱スルハ鑛物ノ試掘、採掘及之ニ附屬スル事業ヲ謂フ

第二條　本法ニ於テ鑛物ト稱スルハ金鑛、銀鑛、銅鑛、鉛鑛、蒼鉛鑛、錫鑛、安質母尼鑛、水銀鑛、亞鉛鑛、鐵鑛、硫化鐵鑛、格魯謨鐵鑛、滿俺鑛、重石鑛、水鉛鑛、砒鑛、ニッケル鑛、コバルト鑛、燐鑛、黒鉛、石炭、亞炭、石油、土瀝靑、硫黃、石膏及重晶石ヲ謂フ但シ砂鑛ハ此ノ限ニ在ラス

含油層ト密接ノ關係アル可燃質天然瓦斯ハ之ヲ石油ト看做ス但シ工業用其ノ他ノ營利ヲ目的トセスシテ單ニ一家ノ自用ニ供スルモノニハ本法ヲ適用セス

第三條　未タ掘採セサル鑛物（廢鑛及鑛滓ヲ含ム）ハ國ノ所有トス

第四條　本法ニ於テ鑛業權ト稱スルハ試掘權及採掘權ヲ謂フ

鑛業權者ハ鑛區ニ於テ其ノ許可ヲ受ケタル鑛物ヲ掘採シ及之ヲ取得スル權利ヲ有ス但シ鑛區ノ重複シタル場合ニ於テハ鑛業權者ハ互ニ其ノ權利ヲ制限セラル

第五條　帝國臣民又ハ帝國法律ニ從ヒ成立シタル法人ニ非サレハ鑛業權者トナルコトヲ得ス

第六條　本法ニ規定シタル鑛業權者ノ權利義務ハ鑛業權ト共ニ移轉ス

本法ノ規定ニ依リ爲シタル手續其ノ他ノ行爲ハ鑛業ヲ出願セムトスル者、鑛業出願人、鑛業權者、土地所有者又ハ關係人ノ承繼人ニ對シテモ其ノ效力ヲ有ス

第七條　二人以上共同シテ鑛業ヲ爲シ又ハ之ヲ爲サムトスルトキハ內一人ヲ選定シテ代表者ト爲シ鑛山監督局長ニ屆出ヘシ其ノ屆出ナキトキハ鑛山監督局長之ヲ指定ス

代表者ハ國ニ對シ共同鑛業出願人又ハ共同鑛業權者ヲ代表ス

共同鑛業出願人又ハ共同鑛業權者ハ組合契約ヲ爲シタル者ト看做ス

第八條　本法ニ於テ鑛夫ト稱スルハ鑛業ニ從事スル勞役者ヲ謂フ

第九條　本法ニ於テ鑛區ト稱スルハ鑛業權ノ登錄ヲ得タル土地ノ區域ヲ謂フ

鑛區ノ境界ハ直線ヲ以テ之ヲ定メ地表境界線ノ直下ヲ限トス其ノ面積ハ石炭ニ在リテハ五萬坪以上其ノ他ノ鑛物ニ在リテハ五千坪以上トシ共ニ百萬坪ヲ超ユルコトヲ得ス但シ鑛利保護上又ハ鑛區分合上已ヲ得サル場合ニハ百萬坪ヲ超ユルコトヲ得

同一ノ鑛區ニ於テハ二以上ノ鑛業權ヲ設定スルコトヲ得ス但シ其ノ目的異種ノ鑛物ナルトキ及第三十六條ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十條　宮城、離宮、神宮及皇陵ノ周圍三百間以內竝要塞地帶第一區內ノ場所ハ之ヲ鑛區ト爲スコトヲ得ス

陸海軍所轄ノ軍港、要港、火藥製造所、火藥庫及彈藥庫ノ周圍三百間以內並要塞地帶第二區及第三區內ノ場所ハ所轄官廳ノ許可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ鑛區ト爲スコトヲ得ス

前二項ニ揭ケタル場所ハ所轄官廳ノ許可ヲ受クルニ非サレハ鑛業ノ爲之ヲ使用スルコトヲ得ス

第十一條 鐵道、軌道、道路、運河、河湖、沼池、隄塘、社寺境內地、墓地、公園地其ノ他ノ營造物及建物ノ地表地下トモ其ノ周圍三十間以內ノ場所ニ於テハ所轄官廳ノ許可、所有者及關係人ノ承諾ヲ受クルニ非サレハ鑛業ヲ爲スコトヲ得ス但シ所有者及關係人ハ正當ノ理由ナクシテ其ノ承諾ヲ拒ムコトヲ得ス

第十二條 鑛業出願地又ハ鑛區ノ訂正、增減及改正ノ出願ニ付テハ鑛業ノ出願ニ關スル規定ヲ準用ス

第十三條 本法ニ於テ鑛業稅ト稱スルハ鑛區稅及鑛產稅ヲ謂フ

第十四條 本法ハ第八章ノ規定ヲ除クノ外國ノ鑛業ニ之ヲ適用ス

第十四條ノ二 主務大臣ハ命令ノ定ムル所ニ依リ本法ニ依ル職權ノ一部ヲ鑛山監督局長ニ委任スルコトヲ得

第二章　鑛業權

第十五條 鑛業權ハ物權トシ不動產ニ關スル規定ヲ準用ス但シ民法第百七十九條第一項ノ規定ハ此ノ限ニ在ラス

第十六條 鑛業權ハ不可分トス

第十七條 鑛業權ハ相續、讓渡、滯納處分及强制執行ノ目的タルノ外權利ノ目的タルコトヲ得ス但シ採掘權ハ抵當權ノ目的ト爲スコトヲ得

第十八條 試掘權ノ存續期間ハ登錄ノ日ヨリ二箇年トス

前項ノ期間ハ鑛區ノ增減又ハ改正ノ爲變更セラルルコトナシ

第十九條 鑛業權及抵當權ノ設定、變更、移轉、消滅並處分ノ制限ハ鑛業原簿ニ登錄ス共同鑛業權者ノ脫退ニ付テモ亦同シ但シ鑛業權ノ處分ヲ制限セラレタルトキハ廢業ノ登錄ヲ爲スコトヲ得ス

前項ノ登錄ハ登記ニ代ルモノトス

登錄ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十條 前條第一項ニ揭ケタル事項ハ相續、期限ノ到來ニ因ル鑛業權ノ消滅並第四十二條及第四十三條ノ競賣ノ場合ヲ除クノ外登錄ヲ爲スニ非サレハ其ノ效力ヲ生セス

第二十一條 鑛業ヲ爲サムトスル者ハ願書ニ鑛區圖ヲ添ヘ試掘ニ付テハ鑛山監督局長採掘ニ付テハ主務大臣ニ出願スヘシ

第二十二條 鑛業出願人ハ名義ノ變更ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ試掘ニ付テハ鑛山監督局長、採掘ニ付テハ主務大臣ニ屆出ヲ爲スニ非サレハ其ノ效力ヲ生セス

第二十三條 採掘出願人ハ出願地ニ其ノ採掘セムトスル鑛物ノ存在スルコトヲ證明スヘシ

第二十四條 主務大臣ニ於テ試掘出願地採掘ニ適スルモノト認メタルトキハ採掘ノ出願ヲ命スヘシ

前項ノ場合ニ於テ命令書到達ノ日ヨリ六十日以內ニ採掘ノ出願ヲ爲ササルトキハ試掘ノ出願ハ之ヲ許可セス

前二項ノ規定ハ主務大臣ニ於テ採掘出願地仍試掘ヲ要スルモノト認メタル場合ニ之ヲ準用ス

第二十五條 採掘出願地ノ位置形狀鑛床ノ位置形狀ト相違シ鑛利ヲ損スル

日本標準規格B4判（十一行全）（富井納）

モノト認メタルトキハ農商務大臣ハ其ノ訂正ノ出願ヲ命スヘシ

前項ノ場合ニ於テ命令書到達ノ日ヨリ六十日以内ニ訂正ノ出願ヲ爲ササルトキハ採掘ノ出願ハ之ヲ許可セス

第二十六條 採掘出願地ノ位置形狀鑛床ノ位置形狀ト相違シ鑛利ヲ損スルモノト認メタルトキハ採掘出願人ハ其ノ訂正ヲ出願スルコトヲ得

第二十七條 鑛業出願人ハ出願地ノ增減ヲ出願スルコトヲ得

第二十八條 試掘出願地出願ノ當時鑛區ト重複スル場合ニ於テ同種ノ鑛物ナルトキハ其ノ重複スル部分ニ付テハ其ノ出願ヲ許可セス

第二十九條 採掘出願地出願ノ當時他人ノ鑛區ト重複スル場合ニ於テ同種ノ鑛物ナルトキハ其ノ重複スル部分ニ付テハ其ノ出願ヲ許可セス但シ第三十六條ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第三十條 採掘出願地他人ノ試掘出願地ト重複スル場合ニ於テ同種ノ鑛物ナルトキハ其ノ重複スル部分ニ付テハ第二十四條第一項及第二項ノ規定ヲ準用ス

第三十一條 鑛業出願地他人ノ鑛區ト重複スル場合ニ於テ異種ノ鑛物ナルトキハ【鑛山監督署長】ハ之ヲ鑛業權者ニ通知スヘシ

鑛業權者ハ前項ノ通知書到達ノ日ヨリ六十日以内ニ自ラ其ノ鑛業ヲ出願スルコトヲ得

前二項ノ規定ハ第三十六條及豫メ鑛業權者ノ承諾ヲ得タル場合ニハ之ヲ適用セス

第一項ノ出願他人ノ鑛業ニ妨害アリト認メタルトキハ之ヲ許可セス

第三十二條 公益ヲ害スルモノト認メタルトキ又ハ鑛業ノ價値ナシト認メタルトキハ鑛業ノ出願ヲ許可セス

第三十三條 試掘出願地又ハ採掘出願地重複スルトキハ其ノ重複スル部分ニ付テハ願書發送ノ日時ノ先ナル者優先權ヲ有ス願書發送ノ日時同一ナルトキハ【鑛山監督署長】ハ之ヲ各出願人ニ通知スヘシ此ノ場合ニ於テハ出願人ハ其ノ通知書發送ノ日ヨリ六十日以内ニ協議ヲ調ヘ之ヲ屆出ヘシ

出願人前項ノ屆出ヲ爲ササルトキハ抽籤ニ依リ優先權者ヲ定ム

前二項ノ規定ハ第二十五條、第二十六條、第三十一條第二項及第三十六條ノ場合ニハ之ヲ適用セス

試掘出願地採掘出願地ト重複スル場合ニ於テ願書發送ノ日時同一ナルトキハ其ノ重複スル部分ニ付テハ採掘出願人ハ優先權ヲ有ス

第三十三條ノ二 試掘權者試掘權ノ存續期間滿了後十日以内ニ同種ノ鑛物ニ付更ニ鑛業ノ出願ヲ爲シタルトキハ舊試掘鑛區ニ係ル部分ニ付テハ他ノ出願人ニ對シ優先權ヲ有ス

前項ノ場合ニ於テ他人ノ出願ノ目的異種ノ鑛物ナルトキハ第三十一條ノ規定ヲ準用ス此ノ場合ニ於テハ前項ノ出願ヲ爲シタル者ヲ以テ鑛業權者ト看做ス

第三十四條 試掘出願人同種ノ鑛物ニ付更ニ採掘ノ出願ヲ爲シタル場合ニ於テ出願地重複スルトキハ其ノ重複スル部分ニ付テハ採掘ノ出願ハ試掘願書發送ノ日時ニ於テ試掘ノ出願ニ代リタルモノト看做ス但シ第三十三條第四項ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

前項本文ノ規定ハ採掘出願人同種ノ鑛物ニ付更ニ試掘ノ出願ヲ爲シタル場合ニ之ヲ準用ス

前二項ノ規定ハ第二十四條及第二十五條ノ場合ニ於ケル期限經過後ノ出

願ニ之ヲ適用セス

第三十五條 採掘權者ハ鑛區ノ合併又ハ分割ヲ農商務大臣ニ出願スルコトヲ得鑛區ノ一部ヲ分割シテ之ヲ他ノ鑛區ニ合併セムトスルトキ亦同シ

抵當權ノ設定アル場合ニ於テ前項ノ出願ヲ爲サムトスルトキハ抵當權者ノ承諾及抵當權ノ順位ニ關スル協定ヲ經ヘシ

第三十六條 鑛業權者ハ鄰接鑛區ノ鑛業權者及抵當權者ノ承諾ヲ得タルトキハ其ノ鑛區ニ掘進スル爲増區ヲ出願スルコトヲ得

鑛床ノ位置形狀ニ依リ鄰接鑛區ニ掘進スルニ非サレハ鑛利ヲ保護スル能ハサル場合ニ於テハ其ノ鑛業權者ノ承諾ヲ得テ鑛區ノ訂正ヲ出願スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ鑛業權者ハ正當ノ理由ナクシテ其ノ承諾ヲ拒ムコトヲ得ス

前二項ノ出願ヲ爲サムトスル者ハ其ノ願書ニ鑛區圖ノ外鑛床圖ヲ添附スヘシ

前項ノ鑛床圖ハ之ヲ鑛區圖ノ一部ト看做ス

第三十七條 第二十五條第一項、第二十六條、第二十七條及第三十三條第三項ノ規定ハ之ヲ鑛區ニ準用ス

第二十五條第一項ニ該當スル場合ニ於テ命令書到達ノ日ヨリ六十日以内ニ出願ヲ爲ササルトキハ農商務大臣ハ採掘權ヲ取消スヘシ

抵當權ノ設定アル場合ニ於テ鑛區ノ減少ヲ出願セムトスルトキハ豫メ抵當權者ノ承諾ヲ經ヘシ

第三十八條 錯誤ニ因リ鑛業ノ出願ヲ許可シタルトキハ農商務大臣ハ鑛區ノ改正ヲ命シ又ハ鑛業權ヲ取消スヘシ

前項ノ改正ヲ命シタル場合ニ於テ命令書到達ノ日ヨリ六十日以内ニ出願ヲ爲ササルトキハ農商務大臣ハ鑛業權ヲ取消スヘシ

第三十九條 鑛業公益ヲ害スルモノト認メタルトキハ農商務大臣ハ鑛業權ヲ取消スヘシ

第四十條 鑛業權者正當ノ理由ナクシテ登錄ノ日ヨリ一箇年以內ニ事業ニ著手セス若ハ一箇年以上休業シタルトキ又ハ施業案ニ依ラスシテ採掘ヲ爲シタルトキハ農商務大臣ハ鑛業權ヲ取消スコトヲ得

第四十一條 鑛業權者第七十二條ノ命令ニ從ハサルトキ又ハ鑛業税ヲ納メサルトキハ農商務大臣ハ鑛業權ヲ取消スコトヲ得

第四十二條 採掘權取消ノ登錄アリタルトキハ【鑛山監督署長】ハ直ニ之ヲ抵當權者ニ通知スヘシ

抵當權者ハ前項ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ三十日以內ニ採掘權ノ競賣ヲ請求スルコトヲ得但シ第三十八條第一項及第三十九條ノ規定ニ依ル採掘權取消ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

採掘權ハ前項ノ期間內又ハ競賣ノ手續完結ノ日迄競賣ノ目的ノ範圍內ニ於テ仍存續スルモノト看做ス

競賣ニ依ル賣得金ハ競賣ノ費用及抵當權者ニ對スル債務ノ辨濟ニ充テ其ノ殘金ハ國庫ニ歸屬ス

競買人ハ採掘權取消ノ登錄アリタル時ニ於テ採掘權ヲ讓受ケタルモノト看做ス

第四十三條 前條ノ規定ハ採掘權者廢業シタル場合ニ之ヲ準用ス

第四十四條 採掘權者ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ施業案ヲ【鑛山監督署長】ニ差出スヘシ其ノ之ヲ變更シタルトキ亦同シ

採掘權者ハ施業案ニ依ルニ非サレハ採掘ヲ爲スコトヲ得ス

第四十五條　【鑛山監督署長】ハ理由ヲ示シテ施業案ノ變更ヲ命スルコトヲ得

前項ニ依リ變更シタル施業案ハ【鑛山監督署長】ノ許可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ變更スルコトヲ得ス

第四十六條　採掘權者ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ坑内實測圖及鑛業簿ヲ鑛業事務所ニ備置キ且其ノ複本ヲ【鑛山監督署長】ニ差出スヘシ

第四十七條　鑛業權者ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ鑛業ニ關スル明細表ヲ【鑛山監督署長】ニ差出スヘシ

第四十八條　試掘ニ依リテ得タル鑛産物ハ【鑛山監督署長】ノ許可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ處分スルコトヲ得ス

第四十九條　鄰接鑛業權者其ノ他ノ利害關係人ハ他人ノ鑛區ニ付【鑛山監督署長】ニ其ノ實地調査ヲ出願スルコトヲ得

出願人ハ前項ノ調査ニ要スル人夫及物品ヲ供スヘシ

第三章　土地使用

第五十條　本章ニ於テ關係人ト稱スルハ第五十二條乃至第五十四條及第五十六條ノ通知前使用又ハ收用スヘキ土地ニ關シテ權利ヲ有スル者及其ノ通知後ニ於テ通知前ヨリ既存セル權利ヲ承繼シタル者ヲ謂フ

第五十一條　本章ニ於テ補償金ト稱スルハ對價、使用料其ノ他土地所有者及關係人ノ通常受クヘキ損失ニ對スル補償金ヲ總稱ス

第五十二條　鑛業ノ出願又ハ鑛業ノ爲必要アルトキハ鑛業ヲ出願セムトスル者、鑛業出願人又ハ鑛業權者ハ【鑛山監督署長】ノ許可ヲ得テ他人ノ土地ニ立入リ測量又ハ檢査ヲ爲スコトヲ得

前項ノ許可ヲ得タル者他人ノ土地ニ立入ラムトスルトキハ豫メ土地占有者ニ通知スヘシ

第五十三條　前條ノ規定ニ依ル測量又ハ檢査ノ爲必要アルトキハ【鑛山監督署長】ノ許可ヲ得テ障碍物ヲ除却スルコトヲ得

前項ノ許可ヲ得タル者障碍物ヲ除却セムトスルトキハ豫メ其ノ所有者及占有者ニ通知スヘシ

第五十四條　鑛業上急迫ノ危險ヲ防ク爲必要アルトキハ鑛業權者ハ【鑛山監督署長】ノ許可ヲ得テ直ニ他人ノ土地ニ立入リ又ハ之ヲ使用スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ鑛業權者ハ遲滯ナク之ヲ土地占有者ニ通知スヘシ

第五十五條　前三條ニ依リ所有者及關係人ノ受ケタル損失ニ對シテハ其ノ請求ニ因リ補償金ヲ拂渡スヘシ

第五十六條　鑛業權者ハ左ニ揭クル目的ノ爲必要アルトキハ他人ノ土地ヲ使用スルコトヲ得

一　錐鑿孔又ハ坑口ノ開穿
二　鑛物、土石、爆發藥、用材、薪炭、鑛滓又ハ灰燼ノ置場ノ設置
三　選鑛場又ハ製錬場ノ建設
四　鐵道、軌道、道路、運河、溝渠、管樋、池井、索道又ハ電線ノ開設
五　其ノ他鑛業上必要ナル工事又ハ工作物ノ施設

前項ノ規定ニ依リ鑛業權者他人ノ土地ヲ使用セムトスルトキハ【鑛山監督署長】ノ許可ヲ受クヘシ

【鑛山監督署長】前項ノ許可ヲ與ヘタルトキハ之ヲ土地所有者及關係人ニ通知スヘシ

前項ノ通知ノ後鑛業權者ハ其ノ土地ニ關スル權利ヲ取得スル爲土地所有

者及關係人ニ協議ヲ爲スヘシ

第五十七條 土地ノ使用三箇年以上ニ亘ルトキ又ハ土地ノ形質ヲ變更スルトキハ所有者ハ其ノ收用ヲ請求スルコトヲ得

第五十八條 土地ノ一部ヲ收用スルニ因リテ殘地ヲ從來用ヰタル目的ニ供スルコト能ハサルトキハ土地所有者ハ其ノ全部ノ收用ヲ請求スルコトヲ得

第五十九條 土地ヲ使用又ハ收用スルトキハ土地所有者及關係人ニ補償金ヲ拂渡スヘシ

第六十條 土地ノ一部ヲ使用又ハ收用スルニ因リテ殘地ノ價格ヲ減シ其ノ他殘地ニ關シ損失ヲ生スヘキトキハ其ノ補償金ヲ拂渡スヘシ

第六十一條 土地ヲ使用又ハ收用スルニ因リテ通路、溝渠、墻柵其ノ他ノ工作物ノ新築、改築、增築又ハ修繕ヲ爲スノ必要ヲ生スルトキハ其ノ補償金ヲ拂渡スヘシ

第六十二條 第五十六條ノ通知ノ後土地ノ形質ヲ變更シ工作物ノ新築、改築、增築若ハ大修繕ヲ爲シ又ハ物件ヲ附加增置セムトスルトキハ土地所有者又ハ關係人ハ【鑛山監督署長】ノ許可ヲ受クヘシ許可ヲ受ケスシテ之ヲ爲シタル者ハ之ニ關スル補償金ヲ請求スルコトヲ得ス

第六十三條 第五十六條ノ通知ノ後事業ヲ廢止又ハ變更シタルニ因リテ土地所有者又ハ關係人ノ受ケタル損失ニ對シ鑛業權者ハ其ノ補償金ヲ拂渡スヘシ

第六十四條 土地所有者及關係人ハ鑛業權者ヲシテ補償金ニ付相當ノ擔保ヲ供セシムルコトヲ得

第六十五條 土地ノ使用又ハ收用ノ協議調ヒ裁決確定シ又ハ判決アリタルトキハ補償金又ハ擔保ノ裁決確定セサルトキト雖鑛業權者ハ其ノ裁決ニ依ル補償金ヲ供託シ又ハ擔保ヲ供シテ土地ヲ使用又ハ收用スルコトヲ得

第六十六條 鑛業權者補償金ノ拂渡若ハ供託ヲ爲サス又ハ擔保ヲ供セサルトキハ土地所有者及關係人ハ土地ヲ用ウルコトヲ拒ムコトヲ得

第六十七條 土地ヲ收用スルトキハ收用ノ時期ニ於テ所有權ハ鑛業權者之ヲ取得シ其ノ他ノ權利ハ消滅ス

土地ヲ使用スルトキハ其ノ權利ハ使用ノ時期ニ於テ鑛業權者之ヲ取得シ其ノ他ノ權利ハ使用ノ期間其ノ行使ヲ停止セラル但シ使用ヲ妨ケサルモノハ此ノ限ニ在ラス

第六十八條 土地ノ使用ヲ終リタルトキハ鑛業權者ハ土地ヲ原狀ニ復シ又ハ原狀ニ復セサルニ因リテ生スル損失ニ對シ補償金ヲ拂渡シテ之ヲ返還スヘシ

第六十九條 先取特權、質權又ハ抵當權ハ其ノ目的物ノ使用又ハ收用ニ因リテ債務者ノ受クヘキ補償金ニ對シテモ之ヲ行フコトヲ得但シ其ノ拂渡前ニ差押ヲ爲スヘシ

第七十條 土地ノ使用及收用ニ關スル規定ハ水ノ使用ニ關スル權利ニ之ヲ準用ス

第四章 鑛業警察

第七十一條 鑛業ニ關スル左ノ警察事務ハ命令ノ定ムル所ニ依リ農商務大臣及【鑛山監督署長】之ヲ行フ

一 建設物及工作物ノ保安

二 生命及衞生ノ保護

三 危害ノ豫防其ノ他公益ノ保護

日本標準規格B4列(十一行全)(富井納)

第七十二條　鑛業上危險ノ虞アリ又ハ公益ヲ害スルノ虞アリト認メタルトキハ農商務大臣ハ鑛業權者ニ其ノ豫防又ハ鑛業ノ停止ヲ命スヘシ
急迫ノ危險ヲ防ク爲必要アルトキハ【鑛山監督署長】ハ前項ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第七十三條　農商務大臣ハ採掘權者ニ技術ニ關スル管理者ノ選任又ハ改任ヲ命スルコトヲ得
管理者ノ資格及職務ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第七十四條　鑛業權消滅シタル後ト雖一箇年間ハ農商務大臣及【鑛山監督署長】ハ第七十二條ノ規定ニ準シ其ノ鑛業權ヲ有セシ者ニ對シテ危害豫防ニ關スル設備ヲ爲スヘキコトヲ命スルコトヲ得
前項ノ命令ヲ受ケタル者ハ危害豫防ノ目的ノ範圍内ニ於テ鑛業權者ト看做ス

第五章　鑛夫

第七十五條　採掘權者ハ鑛夫ノ雇傭及勞役ニ關スル規則ヲ定メ【鑛山監督署長】ノ許可ヲ受クヘシ

第七十六條　鑛業權者ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ鑛夫名簿ヲ鑛業事務所ニ備置クヘシ

第七十七條　鑛業權者鑛夫ヲ解雇シタル場合ニ於テハ其ノ請求ニ因リ雇傭ノ期間、業務ノ種類、技能、賃金及解雇ノ事由ヲ記載シタル證明書ヲ與フヘシ

第七十八條　鑛業權者ハ毎月一回以上期日ヲ定メ通貨ヲ以テ鑛夫ニ其ノ賃金ヲ支拂フヘシ

第七十九條　農商務大臣ハ命令ヲ以テ鑛夫ノ年齢及就業時間竝婦女、幼者

第八十條ノ三　第八十條ノ規定ニ基キ扶助ヲ受クルノ權利ハ二年間之ヲ行ハザルトキハ時效ニ因リ消滅ス

第八十條ノ四　第八十條ノ規定ニ基キ扶助ヲ受クルノ權利ハ之ヲ讓渡シ又ハ差押フルコトヲ得ズ

第六章　鑛業稅

第八十一條　鑛業權者ニハ鑛業稅ヲ課ス
金鑛、銀鑛、鉛鑛及鐵鑛ニ付テハ鑛產稅ヲ課セス
自己ノ掘採シタル鑛物ト他人ヨリ取得シタル鑛物トヲ合併シ製鍊スル場合ニ於テ其ノ取得鑛物ヨリ製出シタル鑛產物ニ付テモ亦前項ニ同シ但シ其ノ取得鑛物ノ數量カ自己ノ掘採シタル鑛物ノ數量ニ超過スルトキハ其ノ超過部分ヨリ製出シタル鑛產物ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第八十二條　鑛業權者ニハ其ノ鑛業ニ付營業稅及營業收益稅ヲ課セス

第八十三條　鑛區稅ハ鑛區一千坪每ニ每年試掘ニ付テハ三十錢、採掘ニ付テハ六十錢トス但シ一千坪未滿ハ之ヲ一千坪ト看做ス

第八十四條　鑛區稅ハ每年十二月中ニ翌年分ヲ前納スヘシ
第三十五條第一項ニ依ルモノヲ除クノ外鑛業權ノ設定若ハ變更ノ登錄ニ依リ新ニ負擔シ又ハ不足セル鑛區稅ニシテ其ノ登錄ノ年ニ係ルモノハ之ヲ卽納スヘシ
前項ニ依リ納付スヘキ鑛區稅ハ月割ヲ以テ之ヲ計算ス鑛業權ノ存續期間滿了ノ年ニ係ルモノ亦同シ

第八十五條　鑛產稅ハ鑛產物ノ價格ノ千分ノ五トス
鑛產物ノ價格ハ主要ナル市場ノ平均相場ヲ標準トシ農商務大臣之ヲ告示ス其ノ告示セサルモノハ之ヲ檢定ス

第八十六條　鑛產稅ハ每年三月中ニ前年分ヲ納付スヘシ但シ鑛業權消滅ノ場合ニ於テハ卽納スヘシ

第八十七條　共同鑛業權者ノ納稅義務ハ連帶トス

第八十八條　北海道、府縣及市町村ハ鑛業稅ニ對シ各左ノ制限內ノ附加稅ヲ課スルコトヲ得

一　北海道、府縣
　試掘鑛區稅　千分ノ三十
　採掘鑛區稅　千分ノ七十
　鑛　產　稅　千分ノ二百

二　市町村
　試掘鑛區稅　千分ノ三十
　採掘鑛區稅　千分ノ七十
　鑛　產　稅　千分ノ千二百

前項ノ附加稅ノ外北海道、府縣及市町村ハ鑛業ニ對シ又ハ鑛夫、鑛產物、鑛區若ハ直接鑛業用ノ工作物、器具、機械ヲ標準トシテ課稅スルコトヲ得ス

前二項ノ規定ハ北海道及沖繩縣ノ區竝【間切島】其ノ他町村ニ準スヘキモノニ之ヲ準用ス

第七章　訴願、訴訟及裁決

第八十九條　鑛業ニ關スル出願ノ許可又ハ拒否ニ不服アル者ハ訴願ヲ提起スルコトヲ得違法ニ權利ヲ傷害セラレタリトスルトキハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第九十條　第十一條又ハ第三十六條ノ承諾ヲ拒マレタル者及其ノ承諾ヲ得ルコト能ハサル者ハ【鑛山監督署長】ノ裁決ヲ申請スルコトヲ得

前項ノ裁決ニ不服アル者ハ訴願ヲ提起スルコトヲ得違法ニ權利ヲ傷害セラレタリトスルトキハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第九十一條　鑛業權ノ取消ニ不服アル者ハ訴願ヲ提起スルコトヲ得違法ニ權利ヲ傷害セラレタリトスルトキハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第九十二條　土地ノ使用若ハ收用、補償金又ハ擔保ニ付協議調ハサルトキ又ハ協議ヲ爲スコト能ハサルトキハ鑛業權者ハ【鑛山監督署長】ノ裁決ヲ申請スルコトヲ得

前項ノ裁決中土地ノ使用又ハ收用ニ付不服アル者ハ訴願ヲ提起スルコトヲ得違法ニ權利ヲ傷害セラレタリトスルトキハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第一項ノ裁決中補償金又ハ擔保ニ付不服アル者ハ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第九十三條　處分又ハ裁決ノ通告書ヲ受ケタル日ヨリ三十日ヲ經過シタルトキハ訴願又ハ訴訟ヲ提起スルコトヲ得ス

前項ノ期間ハ處分又ハ裁決ノ通告書ヲ受ケサル者ニ付テハ其ノ公示ノ日ヨリ之ヲ起算ス

第八章　罰則

第九十四條　鑛業權ヲ有セスシテ鑛物ヲ掘採シタル者又ハ詐僞ノ所爲ヲ以テ鑛業權ヲ得タル者ハ二年以下ノ【重禁錮】又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

過失ニ因リ鑛區外ニ侵掘シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第九十五條　前條ノ場合ニ於テハ其ノ掘採シタル鑛物ヲ沒收ス既ニ之ヲ讓渡シ又ハ消費シタルトキハ其ノ代金ヲ追徵ス

日本標準規格B4判(十一行全)(富井納)

第九十六條 第十條第三項若ハ第十一條ノ規定ニ違背シタル者又ハ第七十二條若ハ第七十四條第一項ノ命令ニ從ハサル者ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第九十七條 第四十四條若ハ第四十五條第二項ノ規定ニ違背シタル者、第四十五條第一項若ハ第七十三條第一項ノ命令ニ從ハサル者又ハ第七十九條若ハ第八十條ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ違背シタル者ハ百五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第九十八條 第四十六條乃至第四十八條、第七十六條又ハ第七十八條ノ規定ニ違背シタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第九十九條 第五十三條第一項ノ許可ヲ受ケスシテ障碍物ヲ除却シタル者又ハ第七十五條ノ規定ニ違背シタル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

當該官吏ニ對シテ鑛業ニ關スル書類若ハ物件ノ檢査ヲ拒ミ又ハ之ヲ妨ケタル者ハ罰前項ニ同シ但シ其ノ刑法ニ正條アルモノハ刑法ニ依ル

第百條 第七十七條ノ規定ニ違背シタル者ハ二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第百一條 詐僞其ノ他不正ノ所爲ヲ以テ鑛業稅ヲ免レ又ハ免レムトシタル者ハ其ノ脫稅金額三倍ニ相當スル罰金ニ處ス

第百二條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ違背シタル者ニハ刑法ノ減輕、【再犯加重及數罪俱發】ノ例ヲ用ヰス

第百三條 鑛業權者カ未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ依リ鑛業權者ニ適用スヘキ罰則ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス但シ鑛業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第百四條 鑛業權者ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本法ヲ犯シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ本法ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ス

本法ニ基キテ發スル命令中別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外其ノ命令ニ規定セル罰則ニ付テモ亦同シ

第百五條 前二條ノ場合ニ於テハ【禁錮】又ハ拘留ノ刑ニ處スルコトヲ得ス

第百六條 明治三十三年法律第五十二號ノ規定ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依ル犯罪ニ之ヲ準用ス

附則

第百七條 本法ハ明治三十八年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

第百八條 鑛業條例ハ之ヲ廢止ス

第百九條 鑛業條例ニ依ル試掘ノ認可ハ試掘權ノ登錄ト看做ス

日本坑法ニ依ル借區ノ許可及鑛業條例ニ依ル採掘ノ特許ハ採掘權ノ登錄ト看做ス但シ鑛業條例第四十一條第二項ニ定メタル面積ニ滿タサル鑛區ニ對スルモノハ其ノ期限ノ到來ニ因リテ消滅ス

第百十條 本法施行前ニ於ケル官廳所屬ノ採掘區域ハ採掘鑛區トシ本法施行ノ日ニ於テ採掘權ノ登錄ヲ得タルモノト看做ス

第百十一條 鑛業條例ニ依ル採掘權ノ書入ノ登錄ハ抵當權ノ登錄ト看做ス

第百十二條 第七十四條ノ規定ハ本法施行前ニ試掘認可又ハ採掘特許ノ消滅シタル場合ニモ之ヲ適用ス但シ一箇年ノ期間ハ其ノ消滅ノ日ヨリ之ヲ起算ス

第百十三條 日本坑法ニ依リ借區ノ許可ヲ得タル者及鑛業條例ニ依リ試掘ノ認可又ハ採掘ノ特許ヲ得タル者ハ本法施行ノ日ヨリ六十日以內ニ明治三十八年分ノ鑛區稅又ハ其ノ不足額ヲ納付スヘシ其ノ鑛區稅ハ月割ヲ以テ計算ス

第百十四條 明治三十八年分ノ鑛產稅ハ本法施行前ニ得タル鑛產物ニ付テモ之ヲ課ス

第百十五條 第八十八條ノ規定ハ明治三十八年度分ノ稅ニ限リ之ヲ適用セス

第百十六條 鑛業條例ニ依リテ爲シタル處分、手續其ノ他ノ行爲ハ本法中之ニ相當スル規定アル場合ニ於テハ本法ニ依リテ之ヲ爲シタルモノト看做ス

第百十七條 本法施行前ニ爲シタル處分ニ對スル訴願、裁定請求、行政訴訟又ハ民事訴訟ニ關シテハ鑛業條例ノ規定ニ依ル

第百十八條 鑛業條例ニ依リ試掘又ハ採掘ヲ出願シタル鑛區ノ面積ニ付テハ鑛業條例第四十一條第二項ノ規定ヲ適用ス

第百十九條 明治三十七年十二月三十一日以前ヨリ引續キ重石鑛又ハ水鉛

鑛ヲ掘採スル者ニシテ明治三十八年七月三十一日迄ニ其ノ鑛物採掘ノ特許ヲ出願スルトキハ其ノ掘採區域ニ限リ第三十一條、第三十三條及鑛區ノ面積ニ關スル第九條ノ規定ニ拘ラス特許ヲ與フヘシ

前項ノ掘採者ニシテ明治三十八年七月三十一日迄ニ其ノ特許ヲ出願シタル者ハ其ノ指令ノ日迄本法ノ規定ニ拘ラス其ノ掘採ヲ繼續スルコトヲ得

第一項ノ規定ニ依リ特許ヲ得タル區域ノ面積五千坪未滿ナル場合ニ於テハ其ノ特許ハ五箇年ヲ經過シタルトキ消滅ス

第百二十條　明治三十九年十二月三十一日以前ヨリ引續キ第二條第二項ノ可燃質天然瓦斯ヲ採掘スル者ハ同條同項但書ニ該當セサル場合ト雖明治四十年六月三十日迄ニ其ノ旨鑛山監督署長ニ屆出ルトキハ其ノ屆出ニ係ル坑井ヨリ噴出スル可燃質天然瓦斯ニ限リ本法ヲ適用セス

附　則（大正十三年法律第二十二號）

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

（大正十五年勅令第百九十九號ヲ以テ大正十五年七月一日ヨリ施行）

附　則（昭和六年法律第六十五號）

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

（昭和七年勅令第三百五十二號ヲ以テ昭和七年分ノ鑛業稅及之ニ對スル附加稅ヨリ施行）

~~朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル鑛業法中改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム~~

~~昭和九年三月二十九日~~
~~法律第三十七號~~

~~鑛業法中左ノ通改正ス~~

~~「農商務大臣」ヲ「商工大臣」ニ、「鑛山監督署長」ヲ「鑛山監督局長」ニ改ム~~

~~第二條第一項中「砒鑛、」ノ下ニ「ニッケル鑛、コバルト鑛、」ヲ加ヘ「及硫黃」ヲ「、硫黃、石膏及重晶石」ニ改ム~~

附　則（昭和九年法律第三十七號）

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（昭和九年勅令第百九十四號ヲ以テ同年七月一日ヨリ施行）

本法施行ノ際現ニニッケル鑛、コバルト鑛、石膏又ハ重晶石ヲ掘採スル者又ハ其ノ承繼人ハ本法施行ノ日ヨリ六月間從前ノ例ニ依リ其ノ掘採ヲ繼續スルコトヲ得其ノ期間內ニ當該掘採者又ハ其ノ承繼人ガニッケル鑛、コバルト鑛、石膏又ハ重晶石ヲ掘採スル爲出願ヲ爲シタル場合ニ於テ許可ノ登錄ノ日又ハ不許可ノ指令ノ日迄亦同ジ

前項ニ揭グル者本法施行ノ日ヨリ六月以內ニニッケル鑛、コバルト鑛、石膏又ハ重晶石ヲ掘採スル爲出願ヲ爲シタルトキハ其ノ掘採區域ニ限リ第九條第三項、第二十八條、第二十九條、第三十一條、第三十三條及第三十三條ノ二ノ規定竝ニ第九條第二項ノ鑛區面積ニ關スル規定ニ拘ラズ之ヲ許可ス

本法施行ノ際現ニ契約又ハ慣習ニ依リニッケル鑛、コバルト鑛、石膏又ハ重晶石ヲ掘採スル者ヨリ代償ヲ受クル土地所有者ハ前項ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタル者ニ對シ右ノ鑛物ノ掘採ニ付相當ノ補償金ヲ請求スルコトヲ得

砂鑛法第十三條及第十五條ノ規定ハ前項ノ補償金ニ之ヲ準用ス

試掘鑛區第三項ノ規定ニ依ル鑛區ト重複シ且同種ノ鑛物ナル場合ニ於テ其ノ試掘權者試掘權存續期間中同種ノ鑛物ニ付採掘ノ出願ヲ爲シ又ハ第三十三條ノ二第一項ノ規定ニ依ル出願ヲ爲シタルトキハ第九條第三項、第二十八條及第二十九條ノ規定ニ拘ラズ之ヲ許可ス

砂鑛法第五條ノ規定ハ第三項ノ規定ニ依ル鑛區他人ノ鑛區ト重複シ且同種ノ鑛物ナル場合ニ之ヲ準用ス

附　則（昭和十年法律第三十四號）（昭和十一年勅令第四百四十六號ヲ以テ昭和十二年一月一日ヨリ施行）

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

鑛業法第八十條ノ規定ニ基キ扶助ヲ受クルノ權利ノ時效ニシテ其ノ進行ガ本法施行前ニ始リタルモノニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル但シ本法施行ノ日ヨリ起算シ其ノ殘期ガ二年ヨリ長キトキハ其ノ日ヨリ起算シテ第八十條ノ三ノ規定ヲ適用ス

参照

●小作調停法 大正十三年七月二十二日 法律第十八號

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル小作調停法ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、農商務、司法大臣副署）

小作調停法

第一條 小作料其ノ他小作關係ニ付爭議ヲ生シタルトキハ當事者ハ爭議ノ目的タル土地ノ所在地ヲ管轄スル地方裁判所ニ調停ノ申立ヲ爲スコトヲ得

當事者ハ合意ヲ以テ爭議ノ目的タル土地ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所ニ調停ノ申立ヲ爲スコトヲ得

第二條 當事者不當ノ目的ヲ以テ濫ニ調停ノ申立ヲ爲シタリト認ムルトキハ裁判所ハ其ノ申立ヲ却下スルコトヲ得

第三條 調停ノ申立ハ爭議ノ目的タル土地ノ所在地ノ市町村長又ハ郡長ヲ經テ之ヲ爲スコトヲ得

第四條 前條ノ規定ニ依ル調停ノ申立アリタルトキハ市町村長又ハ郡長ハ遲滯ナク申立ニ關スル書類ヲ裁判所ニ送付シ且町村長ニ在リテハ郡長ニ、郡長ニ在リテハ町村長ニ

申立アリタル旨ノ通知ヲ爲スコトヲ要ス

爭議ノ目的タル土地カ數郡市町村ニ亙ル場合ニ於テハ調停ノ申立ヲ受ケタル市町村長又ハ郡長ハ遲滯ナク關係市町村長及郡長ニ前項ノ通知ヲ爲スコトヲ要ス

第五條　裁判所直接ニ調停ノ申立ヲ受ケタルトキハ遲滯ナク之ヲ爭議ノ目的タル土地ノ所在地ノ市町村長及郡長ニ通知スルコトヲ要ス但シ第八條第一項ノ規定ニ依リ事件ヲ移送スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第六條　調停ノ申立ハ爭議ノ實情ヲ明ニシテ之ヲ爲スヘシ

第七條　調停ノ申立ハ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

口頭ヲ以テ申立ヲ爲ス場合ニ於テハ市町村長、郡長又ハ裁判所書記其ノ調書ヲ作ルコトヲ要ス

第八條　爭議ノ目的タル土地カ數箇ノ裁判所ノ管轄區域內ニ存スル場合ニ於テ調停ノ申立ヲ受ケタル地方裁判所又ハ區裁判所相當ト認ムルトキハ決定ヲ以テ事件ヲ他ノ管轄地方裁判所又ハ管轄區裁判所ニ移送スルコトヲ得管轄權ナキ裁判所カ調停ノ申立ヲ受ケタルトキ亦同シ

前項ノ決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第一項ノ場合ニ於テ事件ノ移送ヲ受ケタル裁判所ハ遲滯ナク爭議ノ目的タル土地ノ所在地ノ市町村長及郡長ニ其ノ旨ノ通知ヲ爲スコトヲ要ス

第九條　調停ノ申立ヲ受理シタル事件ニ付訴訟カ繫屬スルトキハ調停ノ終了ニ至ル迄訴訟手續ヲ中止ス

第十條　裁判所調停ノ申立ヲ受理シタルトキハ調停委員會ヲ開クコトヲ要ス但シ爭議ノ實情ニ鑑ミ之ヲ開カスシテ調停ヲ爲スコトヲ得

當事者ノ申立アルトキハ前項但書ノ規定ニ拘ラス裁判所ハ調停委員會ヲ開クコトヲ要ス

第十一條　裁判所事情ニ依リ適當ナル者アリト認ムルトキハ前條ノ規定ニ拘ラス之ヲシテ勸解ヲ爲サシムルコトヲ得

第十二條　當事者多數ナル場合ニ於テハ其ノ全部又ハ一部ヲ代表シテ調停ニ關スル一切ノ行爲ヲ爲サシムル爲總代ヲ選任スルコトヲ得

裁判所前項ノ規定ニ依ル總代ナキ場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ總代ノ選任ヲ命スルコトヲ得

總代ハ當事者中ヨリ之ヲ選任スルコトヲ要ス

第十三條　總代ノ選任ハ書面ヲ以テ之ヲ證スルコトヲ要ス總代ノ解任ハ之ヲ裁判所ニ屆出ツルニ非サレハ其ノ效ナシ

第十四條　裁判所ハ期日ヲ定メ當事者又ハ總代ヲ呼出スコトヲ要ス

前項ノ呼出ヲ受ケタル當事者又ハ總代ハ正當ノ事由ナクシテ出頭ヲ拒ムコトヲ得ス

第十五條　調停ノ結果ニ付利害關係ヲ有スル者ハ裁判所ノ許可ヲ受ケ調停ニ參加スルコトヲ得

裁判所ハ調停ノ結果ニ付利害關係ヲ有スル者ノ參加ヲ求ムルコトヲ得

第十六條　當事者、總代及利害關係人ハ自身出頭スルコトヲ要ス但シ特別ノ事情アル場合ニ於テハ裁判所ノ許可ヲ受ケ代理人ヲシテ出頭セシメ又ハ補佐人ヲ同伴スルコトヲ得

裁判所ハ何時ニテモ前項ノ許可ヲ取消スコトヲ得

第十七條　爭議ノ目的タル土地ノ所在地又ハ當事者ノ住所地ノ市町村長又ハ郡長ハ裁判所ニ對シ事件ノ經過ニ付陳述ヲ爲スコトヲ得

第十八條　裁判所必要アリト認ムルトキハ小作官、前條ノ市町村長又ハ郡長其ノ他適當ト認ムル者ニ對シ意見ヲ求ムルコトヲ得

第十九條　小作官ハ期日ニ出席シテ又ハ期日外ニ於テ裁判所ニ對シ意見ヲ述フルコトヲ得

第二十條　裁判所必要アリト認ムルトキハ事實ノ調査ヲ小作官ニ囑託スルコトヲ得

第二十一條　裁判所ニ於ケル調停手續ハ之ヲ公開セス但シ裁判所ハ相當ト認ムル者ノ傍聽ヲ許スコトヲ得

第二十二條　裁判所ハ費用ヲ要スル行爲ニ付當事者ノ一方又ハ雙方ヲシテ其ノ費用ヲ豫納セシムルコトヲ得

第二十三條　裁判所ニ對スル申立其ノ他ノ申述ハ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

口頭ヲ以テ申述ヲ爲ス場合ニ於テハ裁判所書記其ノ調書ヲ作ルコトヲ要ス

第二十四條　裁判所ノ調停ニ付テハ裁判所書記其ノ調書ヲ作ルコトヲ要ス

第二十五條　裁判所ハ調停前調停ノ爲必要ト認ムル措置ヲ爲スコトヲ得

第二十六條　裁判所ノ調停條項中ニ費用ノ負擔ニ關スル定ヲ爲ササルトキハ各當事者ハ其ノ支出シタル費用ヲ自ラ負擔ス

第二十七條　調停ハ裁判上ノ和解ト同一ノ效力ヲ有ス

第二十八條　調停委員會ハ調停主任一人及調停委員二人以上ヲ以テ之ヲ組織ス

第二十九條　調停主任ハ判事ノ中ヨリ每年豫メ地方裁判所長之ヲ指定ス

調停委員ハ調停ニ適當ナル者ニ就キ地方裁判所長ノ選任シタル者ノ中ヨリ各事件ニ付調停主任之ヲ指定ス但シ當事者カ合意ヲ以テ選定シタル者アルトキ又ハ地方裁判所長ノ選任シタル者ニ就キ當事者雙方カ各別ニ選定シタル者アルトキハ其ノ者ノ中ヨリ先ツ之ヲ指定スルコトヲ要ス

前項ノ規定ニ依リ指定セラレタル者ハ正當ノ事由ナクシテ之ヲ辭スルコトヲ得ス

第三十條　調停主任ハ爭議ノ實情ニ鑑ミ適當ト認ムル場所ニ於テ調停委員會ヲ開クコトヲ要ス

第三十一條　調停委員會ニ於ケル調停手續ハ調停主任之ヲ指揮ス

第三十二條　調停委員會ノ決議ハ調停委員ノ過半數ノ意見ニ依ル可否同數ナルトキハ調停主任ノ決スル所ニ依ル

第三十三條　調停委員會ノ評議ハ之ヲ秘密トス

第三十四條　第十一條乃至第二十六條ノ規定ハ調停委員會ノ調停手續ニ之ヲ準用ス

第三十五條　調停委員會ハ當事者、總代又ハ利害關係人ノ陳述ヲ聽キ且必要ト認ムルトキハ證據調ヲ爲スコトヲ得

調停委員會ハ調停主任ヲシテ證據調ヲ爲サシメ又ハ之ヲ區裁判所ニ囑託スルコトヲ得

證據調ニ付テハ民事訴訟法ヲ準用ス

證人及鑑定人ノ受クヘキ旅費、日當及止宿料ニ付テハ民事訴訟費用法ヲ準用ス

第三十六條　期日ニ於テ調停成ラサルトキハ調停委員會ハ適當ト認ムル調停條項ヲ定ムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ調停條項ヲ定メタル場合ニ於テハ調停委員會ハ其ノ調書ノ正本ヲ當事者、總代アルトキハ總代ニ送付シ且當事者又ハ總代カ其ノ送付ヲ受ケタル後一月內ニ異議ヲ述ヘサルトキハ調停ニ同意シタルモノト看做ス旨ノ通知ヲ爲スコトヲ要ス

當事者又ハ總代カ前項ノ正本ノ送付ヲ受ケタル後一月內ニ調停委員會ニ異議ヲ述ヘサルトキハ調停ニ同意シタルモノト看做ス

調停委員會ハ申立ニ因リ前項ノ期間ヲ伸長スルコトヲ得期間ノ伸長ハ之ヲ相手方、總代アルトキハ總代ニ通知スルコトヲ要ス

當事者又ハ總代カ調停條項ニ對シ異議ヲ述ヘタルトキハ調停委員會ハ其ノ旨ヲ相手方、總代アルトキハ總代ニ通知スルコトヲ要ス

第三十七條　調停委員會第二條ニ規定スル事由アリト認ムルトキハ調停ヲ爲ササルコトヲ得

第三十八條　調停成リタルトキ又ハ第三十六條第三項ノ規定ニ依リ調停ニ同意シタルモノト看做サレタルトキハ裁判所ハ調停主任ノ報告ヲ聽キ調停ノ認否ニ付決定ヲ爲スコトヲ要ス

調停認可ノ決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

調停不認可ノ決定ニ對シテハ當事者又ハ總

代ハ民事訴訟法ニ從ヒ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第三十九條　裁判所ハ調停カ著シク公正ナラスト認ムル場合ニ非サレハ調停不認可ノ決定ヲ爲スコトヲ得ス

第四十條　調停委員會ヲ開キタル場合ニ於テハ調停ハ認可決定アリタルトキニ限リ裁判上ノ和解ト同一ノ效力ヲ有ス

第四十一條　裁判所調停認可ノ決定ヲ總代ニ告知シタル場合ニ於テハ調停條項ヲ爭議ノ目的タル土地ノ所在地ノ市役所又ハ町村役場ノ掲示場ニ掲示スルコトヲ要ス

第四十二條　調停委員會必要アリト認ムルトキハ調停ノ經過ヲ公表スルコトヲ得

第四十三條　調停事件終了シタルトキハ裁判所ハ其ノ結果ヲ爭議ノ目的タル土地ノ所在地ノ市町村長及郡長ニ通知スルコトヲ要ス

第四十四條　當事者又ハ利害關係人ハ手數料ヲ納付シテ記錄ノ閲覽若ハ謄寫又ハ其ノ正本、謄本、抄本若ハ事件ニ關スル證明書ノ付與ヲ裁判所書記ニ求ムルコトヲ得但シ當事者カ事件ノ繫屬中記錄ノ閲覽又ハ謄寫ヲ爲ス場合ニ於テハ手數料ヲ納付スルコトヲ要セス

第四十五條　調停委員及第十一條又ハ第三十四條ノ規定ニ依リ勸解ヲ爲シタル者ニハ旅費、日當及止宿料ヲ給ス

第四十六條　第四十四條ノ手數料竝前條ノ旅費、日當及止宿料ノ額ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十七條　本法中郡トアルハ北海道ニ於テハ北海道廳支廳管轄區域、郡長トアルハ北海道ニ於テハ北海道廳支廳長、島司ヲ置キタル島嶼ニ於テハ島司トス
本法中町村、町村長又ハ町村役場トアルハ町村制ヲ施行セサル地ニ於テハ町村、町村長又ハ町村役場ニ準スルモノトス

第四十八條　第三十四條ノ規定ニ依ル呼出ヲ受ケタル者正當ノ事由ナクシテ出頭セサルトキハ調停事件ノ繫屬スル裁判所ハ調停委員會ノ意見ヲ聽キ五拾圓以下ノ過料ニ處スルコトヲ得
非訟事件手續法第二百七條及第二百八條ノ規定ハ前項ノ過料ニ付之ヲ準用ス

第四十九條　調停委員又ハ調停委員タリシ者故ナク評議ノ顚末又ハ調停主任、調停委員ノ意見若ハ其ノ多少ノ數ヲ漏泄シタルトキハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
本法ハ勅令ヲ以テ指定スル地區ニ之ヲ施行セス

日本標準規格B4判(十一行全)(富井 納)

参照

借地借家調停法

大正十一年四月法律第四十一號（總理、司法大臣副署）

第四條ノ二 借地借家關係ノ爭議ニ付訴訟カ繫屬スルトキハ受訴裁判所ハ職權ヲ以テ事件ヲ調停ニ付スルコトヲ得

第十條 申立其ノ他ノ申述ハ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得
口頭ヲ以テ申述ヲ爲ス場合ニ於テハ裁判所書記其ノ調書ヲ作ルコトヲ要ス

第十七條 調停委員會ハ當事者ノ意見ヲ聽キ適當ト認ムル者ヲシテ調停ノ補助ヲ爲サシムルコトヲ得

第十八條 調停委員及前條ノ規定ニ依リ調停ノ補助ヲ爲シタル者ニハ旅費、日當及止宿料ヲ給ス

第二十九條 調停ノ申立ヲ爲スニハ手數料ヲ納付スルコトヲ要ス

第三十條 當事者又ハ利害關係人ハ手數料ヲ納付シテ記錄ノ閲覽若ハ謄寫又ハ其ノ正本、謄本、抄本若ハ事件ニ關スル證明書ノ付與ヲ裁判所書記ニ求ムルコトヲ得但シ當事者カ事件ノ繫屬中記錄ノ閲覽又ハ謄寫ヲ爲ス場合ニ於テハ手數料ヲ納付スルコトヲ要セス

第三十一條 第十八條ノ旅費、日當及止宿料竝前二條ノ手數料ノ額ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

内

開

参照

金銭債務臨時調停法

昭和七年九月 法律第二十六號（總理・司法大臣副署）

第六條 調停ノ申立ヲ受理シタル事件ニ付訴訟ガ繫屬スルトキ又ハ裁判所ノ職權ヲ以テ事件ガ調停ニ付セラレタルトキハ受訴裁判所ハ決定ヲ以テ調停ノ終了又ハ第七條ノ規定ニ依ル裁判確定ニ至ル迄訴訟手續ヲ中止スルコトヲ得

調停事件ノ繫屬スル裁判所ハ申立ニ因リ決定ヲ以テ擔保ヲ供シ又ハ供セシメズシテ強制執行手續又ハ競賣法ニ依ル競賣手續ヲ一時停止スルコトヲ得

民事訴訟法第百十二條、第百十三條、第百十五條及第百十六條ノ規定ハ前項ノ擔保ニ之ヲ準用ス

第一項及第二項ノ決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ズ

第七條 調停委員會ニ於テ調停成ラザル場合ニ裁判所相當ト認ムルトキハ職權ヲ以テ調停委員ノ意見ヲ聽キ當事者雙方ノ利益ヲ衡平ニ考慮シ其ノ資力、業務ノ性質、既ニ債務者ノ支拂ヒタル利息手數料內入金等ノ額其ノ他一切ノ事情ヲ斟酌シテ調停ニ代ヘ利息、期限其ノ他債務關係ノ變更ヲ命ズル裁判ヲ爲スコトヲ得此ノ裁判ニ於テハ債務ノ履行其ノ他財產上ノ給付ヲ命ズルコトヲ得

銀行其ノ他官廳ノ監督ヲ受ケテ金融業務ヲ取扱フ者ノ債權ニ付テハ其ノ業務ノ機構ヲ害スル虞アルトキハ前項ノ裁判ヲ爲スコトヲ得ズ

参照

●商事調停法

大正十五年三月三十日
法律第四十二號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル商事調停法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

（總理、司法大臣副署）

商事調停法

第一條 商事ニ關シ爭議ヲ生シタルトキハ當事者ハ相手方ノ住所、居所、營業所若ハ事務所ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所又ハ當事者ノ合意ニ依リテ定リタル地方裁判所若ハ區裁判所ニ調停ノ申立ヲ爲スコトヲ得
調停ノ申立ヲ受ケタル裁判所調停ヲ爲スニ付相當ト認ムルトキハ決定ヲ以テ事件ヲ他ノ地方裁判所又ハ區裁判所ニ移送スルコトヲ得管轄權ナキ裁判所カ調停ノ申立ヲ受ケタルトキ亦同シ
前項ノ決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第二條 商事調停ニ關シテハ本法ニ別段ノ規定アルモノヲ除クノ外借地借家調停法ヲ準用ス

第三條 裁判所調停ヲ爲スニ付必要アリト認ムルトキハ計算人ヲ選定シ之ヲシテ計算ヲ爲サシムルコトヲ得
調停委員會ヲ開キタル場合ニ於テハ前項ニ規定スル裁判所ノ權限ハ調停委員會ニ屬ス
計算人ニハ旅費、日當及止宿料ヲ給ス其ノ額ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第四條 調停委員會ハ當事者ノ合意アル場合ニ於テハ第一條ノ爭議ニ付民事訴訟法ニ依ル仲裁判斷ヲ爲スコトヲ得
前項ノ場合ニ於テハ當事者ノ指定シタル調停委員會ノ屬スル裁判所ハ申立ニ因リ調停委員會ヲ開クコトヲ要ス

第五條 借地借家調停法第十八條及第二十九條乃至第三十一條ノ規定ハ前條ノ規定ニ依ル仲裁ニ關シ之ヲ準用ス

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
本法施行ノ地區ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
當事者ノ一方ニシテ本法施行地區内ニ住所、居所、營業所又ハ事務所ヲ有スル者ニ對シ調停ノ申立ヲ爲シ得ヘキ事件ニ付テハ其ノ相手方ノ住所、居所、營業所及事務所カ本法施行地區外ニ在ル場合ト雖之ニ對シ其ノ住所、居所、營業所又ハ事務所ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所ニ調停ノ申立ヲ爲スコトヲ得

（昭和一四、一、二六印）

秘

人事調停法案

第一條　家族親族間ノ紛爭其ノ他一般ニ家庭ニ關スル事件ニ付テハ當事者ハ本法ニ依リ調停ノ申立ヲ爲スコトヲ得

第二條　調停ハ道義ニ本ヅキ温情ヲ以テ事件ヲ解決スルコトヲ以テ其ノ本旨トス

第三條　調停ノ申立ハ相手方ノ住所地ヲ管轄スル區裁判所又ハ當事者ノ合意ニ依リテ定ムル區裁判所ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

第四條　裁判所其ノ管轄ニ屬セザル事件ニ付申立ヲ受ケタルトキハ決定ヲ以テ事件ヲ管轄裁判所ニ移送スルコトヲ要ス但シ事件ノ處理上適當ト認ムルトキハ之ヲ他ノ區裁判所ニ移送シ又ハ自ラ處理スルコトヲ妨ゲズ

裁判所其ノ管轄ニ屬スル事件ニ付申立ヲ受ケタルトキト雖モ事件

ノ處理上適當ト認ムルトキハ決定ヲ以テ之ヲ他ノ區裁判所ニ移送スルコトヲ得

前二項ノ決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ズ

第五條　調停ノ申立ガ淳風ニ副ハズ又ハ權利ノ濫用其ノ他不當ノ目的ニ出ヅルモノト認ムルトキハ裁判所ハ其ノ申立ヲ却下スルコトヲ得

第六條　當事者及利害關係人ハ自身出頭スルコトヲ要ス但シ巳ムコトヲ得ザル事由アル場合ニ於テハ代理人ヲシテ出頭セシムルコトヲ得

辯護士ニ非ザル者前項ノ代理人ト爲ルニハ裁判所ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

裁判所ハ何時ニテモ前項ノ許可ヲ取消スコトヲ得

第七條　調停ハ裁判上ノ和解ト同一ノ效力ヲ有ス但シ本人ノ處分ヲ

許サザル事項ニ關スルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第八條　借地借家調停法第二條、第四條ノ二乃至第六條、第八條乃至第十一條、第十三條乃至第十五條、第十六條第一項、第十八條乃至第二十三條及第二十六條乃至第三十二條ノ規定ハ本法ノ調停ニ付之ヲ準用ス

第九條　調停委員ハ德望アル者其ノ他適當ト認メラルル者ニ就キ毎年豫メ地方裁判所長ノ選任シタル者又ハ當事者ノ合意ニ依リ選定セラレタル者ノ中ヨリ各事件ニ付調停主任之ヲ指定ス

第十條　調停委員會ヲ開キタル場合ニ於テハ第六條第二項及第三項ニ規定スル裁判所ノ權限ハ調停委員會ニ屬ス

第十一條　調停委員會第五條ニ規定スル事由アリト認ムルトキハ調停ヲ爲サザルコトヲ得

第十二條　調停委員又ハ調停委員タリシ者故ナク評議ノ顛末又ハ調

停主任、調停委員ノ意見若ハ其ノ多少ノ數ヲ漏泄シタルトキハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

調停委員又ハ調停委員タリシ者故ナク其ノ職務上取扱ヒタルコトニ付知得タル人ノ祕密ヲ漏泄シタルトキハ三月以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ズ

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

鑛業法中改正法律案

鑛業法中左ノ通改正ス

第十四條中「第八章」ヲ「第九章」ニ改ム

第四十一條中「第七十二條」ノ下ニ「若ハ第七十四條ノ四第三項」ヲ加フ

第五章ヲ第六章トシ以下順次繰下ゲ第四章ノ次ニ左ノ一章ヲ加フ

第五章　鑛害ノ賠償

第七十四條ノ二　鑛物掘採ノ爲ノ土地ノ掘鑿、坑水廢水ノ放流、捨石鑛滓ノ堆積又ハ鑛煙ノ排出ニ因リテ他人ニ損害ヲ與ヘタルトキハ損害發生ノ時ニ於ケル當該鑛區ノ鑛業權者、損害發生ノ時鑛業權消滅セル場合ニ於テハ鑛業權消滅ノ時ニ於ケル當該鑛區ノ鑛業權者其ノ損害ヲ賠償スル責ニ任ス

前項ノ場合ニ於テ損害ガ二以上ノ鑛區ノ鑛業權者ノ作業ニ因リテ生シタルトキハ各鑛業權

者ハ連帶シテ損害ヲ賠償スル義務ヲ負フ損害カ二以上ノ鑛區ノ鑛業權者ノ作業ノ中孰レニ因リテ生シタルカヲ知ルコト能ハサルトキ亦同シ

前二項ノ場合ニ於テ損害發生ノ後鑛業權者其ノ鑛業權ヲ讓渡シタルトキハ損害發生ノ時ノ鑛業權者及其ノ後ノ鑛業權者ハ連帶シテ損害ヲ賠償スル義務ヲ負フ

前三項ノ賠償ニ付テハ共同鑛業權者ノ義務ハ連帶トス

第七十四條ノ三　前條第二項ノ連帶債務者相互ノ間ニ於テハ其ノ各自ノ負擔部分ハ相均シキモノト推定ス

前條第三項ノ場合ニ於テ鑛業權ヲ讓受ケタル者賠償ノ義務ヲ履行シタルトキハ損害發生ノ時ノ鑛業權者ニ對シ償還ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第七十四條ノ四　石炭ヲ目的トスル鑛業權者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ石炭掘採ノ爲ノ土地ノ掘鑿ニ因リテ生スヘキ損害ノ賠償ヲ擔保スル爲其ノ掘採シタル石炭ノ數量ニ應シ毎年一定

額ノ金錢ヲ供託スヘシ但シ金錢ニ代ヘ其ノ金額ニ相當スル國債ヲ供託スルコトヲ妨ケス

前項ノ規定ハ國ノ鑛業ニ之ヲ適用セス

石炭ヲ目的トスル鑛業權者第一項ノ供託ヲ怠リタルトキハ主務大臣ハ鑛業ノ停止ヲ命スルコトヲ得

第七十四條ノ五　石炭掘採ノ爲ノ土地ノ掘鑿ニ因リテ損害ヲ被リタル者ハ其ノ損害賠償請求權ニ關シ前條第一項ノ供託物ニ付他ノ債權者ニ先チ辨濟ヲ受クルノ權利ヲ有ス

前項ノ權利ノ實行ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第七十四條ノ六　石炭ヲ目的トスル鑛業權者其ノ鑛業權ヲ讓渡シタルトキハ第七十四條ノ四第一項ノ供託物ニ對スル權利ハ讓受人ニ移轉ス

第七十四條ノ七　石炭ヲ目的トスル鑛業權者又ハ鑛業權者タリシ者ハ左ノ場合ニ限リ命令ノ定ムル所ニ依リ第七十四條ノ四第一項ノ供託物ヲ取戻スコトヲ得

一　石炭掘採ノ爲ノ土地ノ掘鑿ニ因リテ生シタル損害ヲ賠償シタルトキ

二　鑛業權消滅後十箇年ヲ經ルモ石炭掘採ノ爲ノ土地ノ掘鑿ニ因ル損害ノ生セサルトキ

第七十四條ノ八　損害ノ賠償ハ金錢ヲ以テ之ヲ爲ス但シ賠償金額ニ比シ著シク多額ノ費用ヲ要セスシテ原狀ノ回復ヲ爲スコトヲ得ルトキハ被害者ハ原狀ノ回復ヲ請求スルコトヲ得

賠償義務者ノ申立アリタル場合ニ於テ裁判所適當ト認ムルトキハ前項ノ規定ニ拘ラス金錢ノ賠償ニ代ヘ原狀ノ回復ヲ命スルコトヲ得

第七十四條ノ九　損害ノ發生ニ關シ被害者ニ責ムヘキ事由アリタルトキハ裁判所ハ損害賠償ノ責任及範圍ヲ定ムルニ付之ヲ斟酌スルコトヲ得損害ノ發生ニ關シ天災其ノ他ノ不可抗力ノ競合シタルトキ亦同シ

第七十四條ノ十　損害賠償ノ額カ豫定セラレタル場合ニ於テ其ノ額カ著シク不當ナルトキ

ハ當事者ハ之カ增減ヲ請求スルコトヲ得

第七十四條ノ十一　損害賠償請求權ハ被害者カ損害及賠償義務者ヲ知リタル時ヨリ三箇年間之ヲ行ハサルトキハ時效ニ因リテ消滅ス損害發生ノ時ヨリ二十箇年ヲ經過シタルトキ亦同シ

前項ノ期間ハ進行中ノ損害ニ付テハ其ノ進行ノ止ミタル時ヨリ之ヲ起算ス

第七十四條ノ十二　鑛害ノ賠償ニ關シ爭議ノ生シタルトキハ當事者ハ損害ノ發生地ヲ管轄スル地方裁判所又ハ當事者ノ合意ニ依リテ定ムル地方裁判所ニ調停ノ申立ヲ爲スコトヲ得

小作調停法第二條、第六條、第十條、第十二條乃至第十五條、第二十一條、第二十二條、第二十四條乃至第二十八條、第二十九條第一項、第三十條乃至第三十五條、第三十七條乃至第四十條及第四十八條、借地借家調停法第四條ノ二、第十條、第十八條及第二十九條乃至第三十一條、金錢債務臨時調停法第六條第一項第四項、商事調停法第一條第二項、第三項、第四條及第

五條竝人事調停法第六條及第十條ノ規定ハ前項ノ調停ニ之ヲ準用ス

第七十四條ノ十三　調停委員ハ特別ノ知識經驗ヲ有シ公正ナル調停ヲ爲スニ適スル者ニ就キ每年豫メ地方裁判所長ノ選任シタル者又ハ當事者ノ合意ニ依リ選定セラレタル者ノ中ヨリ各事件ニ付調停主任之ヲ指定ス

第七十四條ノ十四　裁判所又ハ調停委員會必要アリト認ムルトキハ關係官廳其ノ他適當ト認ムル者ニ對シ意見ヲ求メ又ハ調査ヲ囑託スルコトヲ得

關係官廳ハ裁判所又ハ調停委員會ニ對シ意見ヲ述フルコトヲ得

第七十四條ノ十五　本章ノ規定ハ鑛業ニ從事スル者ノ業務上ノ負傷、疾病及死亡ニ關シテハ之ヲ適用セス

第九十六條　第十條第三項若ハ第十一條ノ規定ニ違背シタル者又ハ第七十二條、第七十四條第一項若ハ第七十四條ノ四第三項ノ命令ニ從ハサル者ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第五章ノ改正規定ハ第七十四條ノ四乃至第七十四條ノ七ノ規定ヲ除クノ外本法施行前ニ爲シタル作業ニ因リテ本法施行後ニ生ジタル損害ニモ之ヲ適用ス

本法施行前ニ生ジタル損害ニシテ補償金、手當金、見舞金其ノ他何等ノ名義ヲ以テスルヲ問ハズ被害者ガ其ノ賠償ヲ受ケズ又ハ賠償ヲ受ケタルモ其ノ額ガ著シク少額ナリシモノニ付テハ被害者ハ賠償又ハ其ノ增額ヲ請求スルコトヲ得

第七十四條ノ二第一項、第二項及第四項、第七十四條ノ三第一項、第七十四條ノ八、第七十四條ノ九並ニ第七十四條ノ十一乃至第七十四條ノ十五ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ適用ス但シ第七十四條ノ十一第一項ノ三箇年ノ期間ハ被害者ガ本法施行前ニ損害及賠償義務者ヲ知リタルトキハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

鑛業法中改正法律案理由書

鑛業ノ活況ニ伴ヒ各種鑛害ノ發生漸ク多キヲ加ヘントスルノ時之ガ賠償ニ關シ適當ナル法制ヲ設クルハ刻下ノ急務ニシテ鑛業權者ノ賠償責任及其ノ範圍ヲ明確ニシ、特ニ石炭鑛區ノ鑛業權者ニ付テハ將來ノ賠償ニ備ヘシムル制度ヲ樹テ、尙鑛害賠償ノ爭議ニ關シ調停制度ヲ設ケ以テ問題ノ圓滿ナル解決ニ資スルガ爲鑛業法中改正ヲ要スルモノアリ是レ本案ヲ提出スル所以ナリ

十二

商甲第一四號

起案	昭和十四年三月二十日
閣議決定	昭和十四年三月二十二日
裁可	昭和十四年三月二十二日
施行	昭和十四年三月二十八日

内閣總理大臣（花押）

内閣書記官長

内閣書記官

外務大臣（花押）　陸軍大臣（花押）　文部大臣（花押）　逓信大臣（花押）　厚生大臣（花押）

内務大臣（花押）　海軍大臣（花押）　農林大臣（花押）　鐵道大臣（花押）　近衛樞密院議長

大藏大臣（花押）　司法大臣（花押）　商工大臣（花押）　拓務大臣（花押）

別紙兩院ノ議決ヲ經タル日本産金振興株式會社法中改正法律案ヲ審査スルニ右ハ貴族院

議長上奏ノ通裁可ヲ奏請セラレ可然ト認ム

上諭案

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル日本產金振興株式會社法中改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名　御璽

昭和十四年三月二十五日

内閣總理大臣

大藏大臣

商工大臣

拓務大臣

法律第三十三號

（上奏ノ通）

内閣

貴族院ハ兩院ノ議ヲ經タル日本產金振興株式會社法中改正法律案ノ裁可ヲ奏請ス

昭和十四年三月二十日

貴族院議長伯爵松平頼壽

貴族院

日本産金振興株式會社法中左ノ通改正ス

第二十五條ニ左ノ二項ヲ加フ

前項ノ規定ニ依リ産金事業ノ振興上必要ナル命令ヲ爲シタルトキハ政府ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ之ニ因リ生ジタル損失ヲ補償ス

前項ノ補償ヲ伴フベキ命令ハ之ニ因リ要スベキ補償金ノ總額ガ帝國議會ノ協賛ヲ經タル金額ヲ超エザル範圍内ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス

第三十條第一項但書中「及當該營業年度ニ於テ支拂ヒタル産金振興債券」ヲ「竝ニ當該營業年度ニ於テ支拂ヒタル産金振興債券及借入金」ニ改ム

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

日本産金振興株式會社法中
改正法律案

右衆議院ノ議決ヲ經タル政府提出案本院ニ於テ可決セリ依テ御執奏相成度議院法第三十一條ニ依リ此段申進候也

昭和十四年三月二十日

貴族院議長伯爵松平頼壽

内閣總理大臣男爵平沼騏一郎殿

貴族院

日本産金振興株式會社法中改正法律案帝國議會ヘ提出ノ件
右謹テ裁可ヲ仰ク
昭和十四年三月八日
内閣總理大臣男爵平沼騏一郎

商甲 一西

昭和十四年三月八日

内閣書記官長

内閣書記官

内閣總理大臣

法制局長官

外務大臣

内務大臣

大藏大臣

陸軍大臣

海軍大臣

司法大臣

文部大臣

農林大臣

商工大臣

遞信大臣

鐵道大臣

拓務大臣

厚生大臣

樞密院議長

別紙大藏商工拓務三大臣請議日本産金振興株式會社法中改正法律案ヲ審査スルニ右ハ相當ノ儀ト思考ス依テ請議ノ通

法制局

三月八日

閣議決定帝國議會ニ提出セラレ可然ト認ム

法律案

呈案附箋ノ通

日本産金振興株式會社法中改正法律案

右

勅旨ヲ奉ジ帝國議會ニ提出ス

昭和十四年三月八日　衆へ

内閣總理大臣

大藏大臣

商工大臣

拓務大臣

法制局

法制局商第八號
昭和十四年三月六日
主任 山本産金課長

閣商第九號

日本産金振興株式會社ノ積極的活動ニ資セシメンガ爲日本産金振興株式會社法中改正ヲ爲スノ要アリ仍テ右ニ關スル法律案ヲ第七十四回帝國議會ニ提出致度別紙法律案竝ニ理由書ヲ具シ此段閣議ヲ請フ

昭和十四年三月六日

商工大臣 八田嘉明

大藏大臣 石渡莊太郎

商甲一四

內閣 14.3.6

商工省

拓務大臣　八田嘉明

内閣總理大臣男爵平沼騏一郎殿

日本産金振興株式會社法中左ノ通改正ス

第二十五條ニ左ノ二項ヲ加フ

前項ノ規定ニ依リ産金事業ノ振興上必要ナル命令ヲ爲シタルトキハ政府ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ之ニ因リ生ジタル損失ヲ補償ス

前項ノ補償ヲ伴フベキ命令ハ之ニ因リ要スベキ補償金ノ總額ガ帝國議會ノ協賛ヲ經タル金額ヲ超エザル範圍内ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス

第三十條第一項但書中「及當該營業年度ニ於テ支拂ヒタル産金振興債券」ヲ「竝ニ當該營業年度ニ於テ支拂ヒタル産金振興債券及

商工省

借入金」ニ改ム

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

日本産金振興株式會社法中改正法律案理由書

日本産金振興株式會社ノ積極的活動ニ資センガ爲日本産金振興株式會社法中改正ヲ要スルモノアリ是レ本案ヲ提出スル所以ナリ

商工省

参照

日本產金振興株式會社法

昭和十三年三月
法律第三十六號

（總理、内務、大藏
商工、拓務各大臣　副署）

日本產金振興株式會社法

第一章　總則

第一條　日本產金振興株式會社ハ產金事業ノ振興ヲ圖ル爲必要ナル事業ヲ營ムコトヲ目的トスル株式會社トス

第二條　日本產金振興株式會社ハ其ノ本店ヲ東京市ニ、支店ヲ京城府ニ置ク

日本產金振興株式會社ハ前項ノ外政府ノ認可ヲ受ケ支店又ハ出張所ヲ設クルコトヲ得

第三條　日本產金振興株式會社ノ資本ハ五千萬圓トシ內二千五百萬圓ハ政府ノ出資トス

日本產金振興株式會社ハ政府ノ認可ヲ受ケ其ノ資本ヲ增加スルコトヲ得

第四條　日本產金振興株式會社ハ株金全額拂込前ト雖モ其ノ資本ヲ增加スルコトヲ得

第五條　日本產金振興株式會社ノ株式ハ記名式トシ政府、公共團體、帝國臣民又ハ帝國法人ニ

限リ之ヲ所有スルコトヲ得

第六條　日本產金振興株式會社ノ存立期間ハ設立登記ノ日ヨリ三十年トス但シ政府ノ認可ヲ受ケ之ヲ延長スルコトヲ得

第七條　日本產金振興株式會社ニ非ザルモノハ日本產金振興株式會社又ハ之ニ類似ノ名稱ヲ以テ其ノ商號ト爲スコトヲ得ズ

第二章　役員

第八條　日本產金振興株式會社ニ社長副社長各一人、理事三人以上及監事二人以上ヲ置ク

第九條　社長ハ日本產金振興株式會社ヲ代表シ其ノ業務ヲ總理ス

副社長ハ社長事故アルトキハ其ノ職務ヲ代理シ社長缺員ノトキハ其ノ職務ヲ行フ

副社長及理事ハ社長ヲ補助シ日本產金振興株式會社ノ業務ヲ分掌ス

監事ハ日本產金振興株式會社ノ業務ヲ監査ス

第十條　社長及副社長ハ政府之ヲ命ジ其ノ任期ヲ四年トス
理事ハ株主中ヨリ株主總會ニ於テ二倍ノ候補者ヲ選擧シ政府其ノ中ヨリ之ヲ命ジ其ノ任期ヲ三年トス
監事ハ株主中ヨリ株主總會ニ於テ之ヲ選任シ其ノ任期ヲ二年トス
第十一條　社長、副社長及理事ハ他ノ職務又ハ商業ニ從事スルコトヲ得ズ但シ政府ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第三章　營業

第十二條　日本産金振興株式會社ハ左ノ事業ヲ營ムモノトス
一　金鑛ヲ目的トスル鑛業若ハ砂金ヲ目的トスル砂鑛業(以下金鑛業ト總稱ス)、金製錬業又ハ金鑛業若ハ金製錬業ノ用ニ供スル器具機械類ノ製造業ニ對スル資金ノ融通又ハ投資
二　金鑛業又ハ金製錬業

三　金鑛業又ハ金製錬業ノ爲必要ナル器具、機械、材料又ハ設備ノ賣買

四　含金鑛産物ノ賣買

五　委託ニ依ル金鑛山ニ關スル調査又ハ鑑定

日本産金振興株式會社ハ政府ノ認可ヲ受ケ前項ノ事業ノ外本會社ノ目的達成上必要ナル諸事業ヲ營ムコトヲ得

第十三條　日本興業銀行、朝鮮殖産銀行又ハ東洋拓殖株式會社ハ前條第一項第一號ノ事業ニ關シ日本産金振興株式會社ノ業務ノ一部ヲ代理スルコトヲ得

日本産金振興株式會社前項ノ銀行又ハ會社ヲシテ業務ノ一部ヲ代理セシメントスルトキハ政府ノ認可ヲ受クベシ

第四章　産金振興債券

第十四條　日本産金振興株式會社ハ拂込ミタル株金額ノ五倍ヲ限リ産金振興債券ヲ發行スル

コトヲ得

産金振興債券ヲ發行スル場合ニ於テハ商法第二百九條ニ定ムル決議ニ依ルコトヲ要セズ

第十五條　産金振興債券ヲ發行セントスル場合ニ於テハ政府ノ認可ヲ受クベシ

第十六條　政府ハ産金振興債券ノ元本ノ償還及利息ノ支拂ニ付保證スルコトヲ得

第十七條　産金振興債券ハ無記名式トス但シ應募者又ハ所有者ノ請求ニ因リ記名式ト爲スコトヲ得

第十八條　産金振興債券ノ所有者ハ日本産金振興株式會社ノ財産ニ付他ノ債權者ニ先チテ自己ノ債權ノ辨濟ヲ受クル權利ヲ有ス

第十九條　日本産金振興株式會社ハ社債借換ノ爲一時第十四條ノ制限ニ依ラズ産金振興債券ヲ發行スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ發行後一月以内ニ其ノ社債總額ニ相當スル舊産金振興債券ヲ償還スベシ

第五章　準備金

第二十條　日本產金振興株式會社ハ每營業年度ニ準備金トシテ資本ノ缺損ヲ補フ爲利益金額ノ百分ノ八以上ヲ積立テ且利益配當ノ平均ヲ得シムル爲利益金額ノ百分ノ二以上ヲ積立ツベシ

第六章　監督及助成

第二十一條　政府ハ日本產金振興株式會社ノ業務ヲ監督ス

第二十二條　日本產金振興株式會社借入金ヲ爲サントスルトキハ政府ノ認可ヲ受クベシ

第二十三條　定款ノ變更、利益金ノ處分、合併及解散ノ決議ハ政府ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

第二十四條　日本產金振興株式會社ハ每營業年度ノ事業計畫ヲ定メ政府ノ認可ヲ受クベシ之ヲ變更セントスルトキ亦同ジ

第二十五條　政府ハ日本產金振興株式會社ノ業務ニ關シ監督上又ハ產金事業ノ振興上必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第二十六條　政府ハ日本產金振興株式會社監理官ヲ置キ日本產金振興株式會社ノ業務ヲ監視セシム

第二十七條　日本產金振興株式會社監理官ハ何時ニテモ日本產金振興株式會社ノ金庫、帳簿及諸般ノ文書物件ヲ檢査スルコトヲ得

日本產金振興株式會社監理官必要ト認ムルトキハ何時ニテモ日本產金振興株式會社ニ命ジ業務ニ關スル諸般ノ計算及狀況ヲ報告セシムルコトヲ得

日本產金振興株式會社監理官ハ株主總會其ノ他諸般ノ會議ニ出席シ意見ヲ陳述スルコトヲ得

第二十八條　政府日本產金振興株式會社ノ決議又ハ役員ノ行爲ガ法令、法令ニ基キテ爲ス處

分若ハ定款ニ違反シ又ハ公益ヲ害スト認ムルトキハ其ノ決議ヲ取消シ又ハ役員ヲ解任スルコトヲ得

第二十九條　日本產金振興株式會社ハ每營業年度ニ於ケル配當シ得ベキ利益金額ガ政府以外ノ者ノ所有スル株式ノ拂込ミタル株金額ニ對シ年百分ノ四ノ割合ニ達スル迄政府ノ所有スル株式ニ對シ利益ノ配當ヲ爲スコトヲ要セズ

第三十條　日本產金振興株式會社ノ每營業年度ニ於ケル配當シ得ベキ利益金額ガ政府以外ノ者ノ所有スル株式ノ拂込ミタル株金額ニ對シ年百分ノ四ノ割合ニ達セザルトキハ政府ハ初營業年度及爾後五年間ヲ限リ之ニ達セシムベキ金額ヲ補給スベシ但シ其ノ額ハ初營業年度ヲ除キ每營業年度ニ於テハ政府以外ノ者ノ所有スル株式ノ拂込ミタル株金額ニ對シ年百分ノ四ノ割合ニ相當スル額及當該營業年度ニ於テ支拂ヒタル產金振興債券ノ利息額ノ合計額ヲ超ユルコトヲ得ズ

毎營業年度ニ於ケル配當シ得ベキ利益金額ガ政府以外ノ者ノ所有スル株式ノ拂込ミタル株金額ニ對シ年百分ノ四ノ割合ヲ超過スルトキハ其ノ超過額ハ先ヅ之ヲ前項ノ規定ニ依ル補給金ノ償還ニ充ツベシ

初營業年度及爾後五年間ニ於ケル配當シ得ベキ利益金額ガ政府以外ノ者ノ所有スル株式ノ拂込ミタル株金額ニ對シ年百分ノ四ノ割合ヲ超過スルトキハ其ノ二分ノ一ヲ配當準備ノ爲別ニ積立ツベシ

第二項ノ規定ニ依リ補給金ヲ償還シ尚殘餘アリタルトキハ之ヲ前項ノ拂込ミタル株金額ニ對シ年百分ノ四ノ割合ヲ超過シタル當該營業年度ノ利益金ト看做ス

前二項ノ規定ニ依ル積立金ハ後營業年度ニ於ケル第一項ノ規定ニ依ル補給金ノ計算ニ付テハ之ヲ配當シ得ベキ利益金ト看做ス

第三十一條　日本產金振興株式會社ノ毎營業年度ニ於ケル配當シ得ベキ利益金額ガ政府以外

ノ者ノ所有スル株式ノ拂込ミタル株金額ニ對シ年百分ノ四ノ割合ヲ超過スル場合ニ於テ政府以外ノ者ノ所有スル株式ニ對シ年百分ノ四ノ割合ヲ超エ利益配當ヲ爲サントスルトキハ其ノ超過スル利益金額ハ利益配當ガ總株式ニ付拂込ミタル株金額ニ對シ均一ノ割合ニ達スル迄政府以外ノ者ノ所有スル株式ノ拂込ミタル株金額及政府ノ所有スル株式ノ拂込ミタル株金額ニ對シ一ト五トノ割合ヲ以テ之ヲ配當スベシ

第三十二條　日本産金振興株式會社ニハ開業ノ年及其ノ翌年ヨリ十年間所得稅及營業收益稅ヲ免除ス

第三十三條　北海道、府縣及市町村其ノ他之ニ準ズベキモノハ前條ノ期間日本産金振興株式會社ノ事業ニ對シ地方稅ヲ課スルコトヲ得ズ但シ特別ノ事情ニ基キ政府ノ認可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第七章　罰則

第三十四條　日本産金振興株式會社左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ社長又ハ社長ノ職務ヲ行ヒ若ハ代理スル副社長ヲ百圓以上二千圓以下ノ過料ニ處ス副社長又ハ理事ノ分掌業務ニ係ルトキハ副社長又ハ理事ヲ過料ニ處スルコト亦同ジ

一　本法ニ依リ認可ヲ受クベキ場合ニ於テ其ノ認可ヲ受ケザルトキ

二　第十二條ノ規定ニ依ラズシテ業務ヲ營ミタルトキ

三　第十四條ノ規定ニ違反シ産金振興債券ヲ發行シタルトキ

四　第十九條ノ規定ニ違反シ産金振興債券ノ償還ヲ爲サザルトキ

五　第二十五條ノ規定ニ基キテ爲シタル命令ニ違反シタルトキ

第三十五條　日本産金振興株式會社ノ社長、副社長及理事第十一條ノ規定ニ違反シタルトキハ二十圓以上二百圓以下ノ過料ニ處ス

第三十六條　第七條ノ規定ニ違反シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ過料ニ處ス

第三十七條　非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前三條ノ過料ニ之ヲ準用ス

附　則

第三十八條　本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十九條　政府ハ設立委員ヲ命ジ日本產金振興株式會社ノ設立ニ關スル一切ノ事務ヲ處理セシム

第四十條　設立委員ハ定款ヲ作成シ政府ノ認可ヲ受クベシ

第四十一條　前條ノ認可アリタルトキハ設立委員ハ株式總數ヨリ政府ニ割當ツベキ株式ヲ控除シタル殘餘ノ株式ニ付株主ヲ募集スベシ

第四十二條　株式申込證ニハ定款認可ノ年月日竝ニ商法第百二十六條第二項第二號、第四號及第五號ニ規定スル事項ヲ記載スベシ

第四十三條　設立委員株主ノ募集ヲ終リタルトキハ株式申込證ヲ政府ニ提出シ其ノ檢查ヲ受

クベシ

第四十四條　設立委員ハ前條ノ檢査ヲ受ケタル後遲滯ナク各株ニ付第一回ノ拂込ヲ爲サシムベシ

前項ノ拂込アリタルトキハ設立委員ハ遲滯ナク創立總會ヲ招集スベシ

第四十五條　創立總會ニ於テハ第十條ノ規定ニ準ジ理事候補者ノ選擧及監事ノ選任ヲ行フベシ

第四十六條　創立總會終結シタルトキハ設立委員ハ其ノ事務ヲ日本產金振興株式會社社長ニ引渡スベシ

第四十七條　本法施行ノ際日本產金振興株式會社又ハ之ニ類似ノ名稱ヲ以テ商號ト爲ス會社ハ本法施行後六月以內ニ其ノ商號ヲ變更スルコトヲ要ス

第三十六條ノ規定ハ前項ノ期間內之ヲ前項ニ揭グル者ニ適用セズ

第四十八條　登錄稅法第六條第一項第十一號中「又ハ燃料興業債券」ヲ「燃料興業債券又ハ産金振興債券」ニ改ム

第四十九條　金資金特別會計法第四條中「又ハ國債」ヲ「國債、産金振興債券又ハ總額二千五百萬圓ヲ限リ日本産金振興株式會社株式」ニ改ム

日本產金振興株式會社法案理由書

現下ノ時局ニ鑑ミ金ノ增產ヲ圖リ對外決濟力ヲ豐富ナラシムルハ刻下ノ要務ナリ仍テ新ニ日本產金振興株式會社法ヲ制定シ本會社ヲシテ金ノ增產ニ必要ナル資金ノ融通、低品位金鑛ヲ主トシテ處理スル製錬事業等ノ業務ヲ經營セシムルノ要アリ是レ本案ヲ提出スル所以ナリ

日本産金振興株式會社法中改正法律案

日本產金振興株式會社法中左ノ通改正ス

第二十五條ニ左ノ二項ヲ加フ

前項ノ規定ニ依リ產金事業ノ振興上必要ナル命令ヲ爲シタルトキハ政府ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ之ニ因リ生ジタル損失ヲ補償ス

前項ノ補償ヲ伴フベキ命令ハ之ニ因リ要スベキ補償金ノ總額ガ帝國議會ノ協贊ヲ經タル金額ヲ超エザル範圍內ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス

第三十條第一項但書中「及當該營業年度ニ於テ支拂ヒタル產金振興債券」ヲ「竝ニ當該營業年度ニ於テ支拂ヒタル產金振興債券及借入金」ニ改ム

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

日本產金振興株式會社法中改正法律案理由書

日本產金振興株式會社ノ積極的活動ニ資センガ爲日本產金振興株式會社法中改正ヲ要スルモノアリ是レ本案ヲ提出スル所以ナリ

十三

大甲第三三號

起案 昭和十四年三月二十日

閣議決定 昭和十四年三月二十二日

裁可 昭和十四年三月二十二日

施行 昭和十四年四月十日 公布

内閣總理大臣

内閣書記官長

内閣書記官

外務大臣	陸軍大臣	文部大臣	遞信大臣	厚生大臣
内務大臣	海軍大臣	農林大臣	鐵道大臣	
大藏大臣	司法大臣	商工大臣	拓務大臣	

別紙兩院ノ議決ヲ經タル産金法中

改正法律案ヲ審査スルニ右ハ貴族院

議長上奏ノ通裁可ヲ奏請セラレ可然ト認ム

上諭案

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル產金法中改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

昭和十四年四月八日

内閣總理大臣

大藏大臣

商工大臣

法律第八十號

（上奏ノ通）

内閣

貴族院ハ両院ノ議ヲ經タル
產金法中改正法律案ノ裁可
ヲ奏請ス

昭和十四年三月二十日

貴族院議長伯爵松平頼壽

貴族院

産金法中左ノ通改正ス

第十一條ノ二　政府ハ必要アリト認ムルトキハ左ニ掲グル物ヲ所有スル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ之ガ處分ニ關シ禁止若ハ制限ヲ爲シ又ハ之ヲ政府若ハ政府ノ指定スル者ニ賣却スベキコトヲ命ズルコトヲ得

一　金地金

二　金ノ合金ニシテ命令ノ定ムル種類ノモノ

三　金ヲ主タル材料トスル物ニシテ命令ノ定ムル種類ノモノ

政府ハ必要アリト認ムルトキハ金貨幣ヲ所有スル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ之ガ處分ニ關シ禁止若ハ制限ヲ爲シ又ハ之ヲ鑄潰シ依リテ得タル金地金ヲ政府若ハ政府ノ指定スル者ニ賣却スベキコトヲ命ズルコトヲ得

第十一條ノ三　前條ノ規定ニ依リテ政府ノ爲ス金地金、金ノ合金又ハ金ヲ主タル材料トスル物ノ買入ハ金資金ノ運用ニ屬スルモノトス

第十一條ノ四　第十一條ノ二ノ規定ニ依リ政府又ハ政府ノ指定スル者ニ賣却スベキコトヲ命ジタル場合ノ賣却價額ハ金地金ニ在リテハ其ノ物ノ中ニ含マルル金ノ純量ニ付第一條第一項ノ規定ニ依リ政府ガ金地金ヲ買上グル場合ノ買上價格ニ依リ算出シタル金額トシ金ノ合金又ハ金ヲ主タル材料トスル物ニ在リテハ金委員會ノ定ムル所ニ依ル

第十一條ノ五　第十一條ノ二第一項第三號ノ規定ニ依リ金ヲ主タル材料トスル物ヲ政府又ハ政府ノ指定スル者ニ賣却スベキコトヲ命ジタル場合ニ於テ其ノ物ガ美術品骨董品工藝品其ノ他ノ物ニシテ鑄潰スルコトヲ適當トセザルモノナルトキハ其ノ物ヲ所有スル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ許可ヲ受ケ之ヲ賣却セザルコトヲ得

第十四條中「又ハ第十一條」ヲ「第十一條又ハ第十一條ノ二」ニ改ム

第十九條中「當該金地金」ノ下ニ「、金ノ合金、金ヲ主タル材料トスル物」ヲ加ヘ同條ニ左ノ二號ヲ加フ

五　第十一條ノ二ノ規定ニ依ル禁止又ハ制限ニ違反シタル者

六　第十一條ノ二ノ規定ニ依ル命令ニ違反シテ金地金、金ノ合金又ハ金ヲ主タル材料トスル物ヲ政府又ハ政府ノ指定スル者ニ賣却セザル者

附　則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

外國爲替管理法第四條第一項第一號中「金地金、」ヲ削リ同法第五條第三項中「金地金」ヲ「外國通貨」ニ改ム

産金法中改正法律案

右衆議院ノ議決ヲ經タル政府提出案本院ニ於テ可決セリ依テ御執奏相成度議院法第三十一條ニ依リ此段申進候也

昭和十四年三月二十日

貴族院議長伯爵松平頼壽

内閣總理大臣男爵平沼騏一郎殿

産金法中改正法律案帝國議會
ヘ提出ノ件
右謹テ裁可ヲ仰ク
昭和十四年二月二十八日
内閣總理大臣男爵平沼騏一郎

大甲三三

昭和十四年二月二十三日　内閣書記官長　内閣書記官

内閣總理大臣　法制局長官

外務大臣	陸軍大臣	文部大臣
遞信大臣	厚生大臣	
内務大臣	海軍大臣	農林大臣
鐵道大臣	近衛樞密院議長	
大藏大臣	司法大臣	商工大臣
拓務大臣		

別紙大藏商工兩大臣請議産金法中改正法律案ヲ審査スルニ右ハ相當ノ儀ト思考ス依テ請議ノ通

法制局

二月二十八日

閣議決定帝國議會ニ提出セラレ可然ト認ム

法律案

呈案附箋ノ通

産金法中改正法律案

右

勅旨ヲ奉ジ帝國議會ニ提出ス

昭和十四年三月一日 衆へ

内閣總理大臣

大藏大臣

商工大臣

法制局

法制局大第二二號
昭和十四年二月九日

法制局 佐藤

主任者 理財局金融課長 迫水大藏書記官

官秘第二三號

我國國際收支ノ現狀ニ顧ミ對外決濟力ニ資スル爲民間所在金ノ集中ヲ圖ルハ喫緊ノ要務ナリト認メラルルヲ以テ金地金、金ノ合金、金ヲ主タル材料トスル物又ハ金貨幣ヲ所有スル者ニ對シ之ガ處分ヲ禁止若ハ制限シ又ハ之ヲ政府若ハ政府ノ指定スル者ニ賣却スベキコトヲ命ジ得ルコトトナス爲產金法中改正ヲ爲スノ要アリ之ガ爲右ニ關スル法律案ヲ第七十四回帝國議會ニ提出セムトス

仍テ別紙法律案竝ニ理由書ヲ具シ茲ニ閣議ヲ請フ

昭和十四年二月八日

大藏大臣 石渡莊太郎

大甲 三三

大藏省

44

商工大臣　八田嘉明

内閣總理大臣男爵平沼騏一郎殿

大藏省

規格 B.5 (12. 8. 小川納)

産金法中左ノ通改正ス

第十一條ノ二 政府ハ必要アリト認ムルトキハ左ニ掲グル物ヲ所有スル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ之ガ處分ニ關シ禁止若ハ制限ヲ爲シ又ハ之ヲ政府若ハ政府ノ指定スル者ニ賣却スベキコトヲ命ズルコトヲ得

一 金地金

二 金ノ合金ニシテ命令ノ定ムル種類ノモノ

三 金ヲ主タル材料トスル物ニシテ命令ノ定ムル種類ノモノ

政府ハ必要アリト認ムルトキハ金貨幣ヲ所有スル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ之ガ處分ニ關シ禁止若ハ制限ヲ爲シ又ハ之ヲ鑄潰シ依リテ得タル金地金ヲ政府若ハ政府ノ指定スル者ニ賣却スベキコトヲ命ズルコトヲ得

大藏省

第十一條ノ三　前條ノ規定ノ為ス金地金、金ノ合金又ハ金ヲ主タル材料トスル物ノ買入ニ付賣却スベキコトヲ命ジタル場合ニ於テハ其ノ…、金資金ノ運用ニ屬ス之ヲ買入ルルモノトス

第十一條ノ四　第十一條ノ二ノ規定ニ依リ政府又ハ政府ノ指定スル者ニ賣却スベキコトヲ命ジタル場合ノ賣却價額ハ金地金ニ在リテハ其ノ物ノ中ニ含マルル金ノ純量ニ付第一條第一項ノ規定ニ依リ政府ガル場合ノ買上價格ニ依リ算出シタル金額トシ金ノ合金又ハ金ヲ主タル材料トスル物ニ在リテハ金委員會ノ定ムル所ニ依ル

第十一條ノ五　第十一條ノ二第一項第三號ノ規定ニ依リ金ヲ主タル材料トスル物ヲ政府又ハ政府ノ指定スル者ニ賣却スベキコトヲ命ジタル場合ニ於テ其ノ物ガ美術品骨董品工藝品其ノ他ノシテ鑄潰スルコトヲ適當トセザルモノナルトキハ其ノ物ヲ所有スル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ許可ヲ受ケ之ヲ賣却セザルコトヲ得

第十四條中「又ハ第十一條」ヲ「、第十一條又ハ第十一條ノ二」ニ改

大藏省

ム
第十九條中「當該金地金」ノ下ニ「、金ノ合金、金ヲ主タル材料トス
ル物」ヲ加ヘ同條ニ左ノ二號ヲ加フ
五　第十一條ノ二ノ規定ニ依ル禁止又ハ制限ニ違反シタル者合金又
ハ金ヲ主タル材料トスル物ヲ政府又ハ政府ノ指定スル者ニ賣却セ
ザル者
第二十條ニ左ノ一號ヲ加フ
五　第十一條ノ二ノ規定ニ依ル禁止又ハ制限ニ違反シタル者

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
外國爲替管理法第四條第二號中「金地金、」ヲ削リ同法第五條第三項
中「金地金」ヲ「外國通貨」ニ改ム

大藏省

産金法中改正法律案理由書

我國國際收支ノ現狀ニ顧ミ金ノ集中ヲ圖ル爲産金法中改正ヲ要スルモノアリ是レ本案ヲ提出スル所以ナリ

大藏省

規格 B.5 (12.8.小川納)

参照

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル產金法ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

昭和十二年八月十日

内閣總理大臣 公爵 近衞 文麿
大藏大臣 賀屋 興宣
商工大臣 吉野 信次

法律第五十九號（官報 八月十一日）

產金法

第一條 含金鑛物、砂金又ハ製錬ノ過程ニ在ル含金物（以下含金鑛產物ト總稱ス）ヲ取得シタル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ金地金ニ製錬シテ政府ニ賣却シ又ハ之ヲ金製錬業者若ハ第三條第一項ノ規定ニ依リ含金鑛產物ノ買入ノ免許ヲ受ケタル者ニ賣却スベシ

前項ノ含金鑛產物ノ範圍ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二條 政府ハ必要アリト認ムルトキハ含金鑛產物ヲ取得シタル者ニ對シ之ヲ金製錬業者又ハ第三條第一項ノ規定ニ依リ含金鑛產物ノ買入ノ免許ヲ受ケタル者ニシテ政府ノ指定スルモノニ賣却スベキコトヲ命ズルコトヲ得

政府ハ必要アリト認ムルトキハ金製錬業者又ハ第三條第一項ノ規定ニ依リ含金鑛產物ノ買入ノ免許ヲ受ケタル者ニ對シ政府ノ指定スル者ヨリ含金鑛產物ヲ買入ルベキコトヲ命ズルコトヲ得

第三條 金製錬業ヲ營マントスル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ免許ヲ受クベシ業トシテ含金鑛產物ノ買入ヲ爲サントスル者亦同ジ

前項ノ免許ヲ受ケ金製錬業ヲ營ム者ハ之ヲ金製錬業者ト稱ス

金製錬業者又ハ第一項ノ規定ニ依リ含金鑛產物ノ買入ノ免許ヲ受ケタル者ニ非ザレバ含金鑛產物ヲ讓受クルコトヲ得ズ但

シ命令ヲ以テ定ムル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第四條　金製錬業者其ノ事業ヲ廢止シ又ハ休止セントスルトキハ政府ノ許可ヲ受クベシ

金製錬業ノ讓渡又ハ金製錬業ヲ營ム會社ノ合併若ハ解散ノ決議若ハ總社員ノ同意ハ政府ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

相續人ガ被相續人ノ金製錬業ヲ承繼シタルトキハ相續人ハ金製錬業ノ免許ヲ受ケタル者ト看做ス此ノ場合ニ於テハ相續人ハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ旨ヲ政府ニ屆出ヅベシ

第五條　金製錬業者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ事業計畫ヲ定メ之ヲ政府ニ屆出ヅベシ之ヲ變更セントスルトキ亦同ジ

政府ハ必要アリト認ムルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ事業計畫ノ變更ヲ命ズルコトヲ得

第六條　政府ハ産金ノ増加ヲ圖ル爲必要アリト認ムルトキハ金製錬業者ニ對シ製錬設備ノ擴張、改良其ノ他製錬設備ニ關シ必要ナル事項ヲ命ズルコトヲ得

第七條　金鑛ヲ目的トスル鑛業權者及砂金ヲ目的トスル砂鑛權者（以下金鑛業者ト總稱ス）ハ命令ノ定ムル所ニ依リ事業計畫ヲ定メ之ヲ政府ニ屆出ヅベシ之ヲ變更セントスルトキ亦同ジ

政府ハ必要アリト認ムルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ事業計畫ノ變更ヲ命ズルコトヲ得

第八條　政府ハ産金ノ増加ヲ圖ル爲必要アリト認ムルトキハ金鑛業者ニ對シ探鑛、掘採、採取若ハ選鑛ニ付設備ノ新設、擴張、改良其ノ他必要ナル事項ヲ命ジ又ハ製錬設備ノ新設ヲ命ズルコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル命令ニ依リ製錬設備ノ新設ヲ爲シタル者ハ金製錬業者ト看做ス

第九條　政府ハ公益上必要アリト認ムルトキハ金鑛業者、金製錬業者又ハ第三條第一項ノ規定ニ依リ含金鑛産物ノ買入ノ免許ヲ受ケタル者ニ對シ含金鑛産物ノ取引ニ關シ必要ナル事項ヲ命ズルコトヲ得

第十條　政府ハ金鑛業者、金製錬業者又ハ第三條第一項ノ規定ニ依リ含金鑛産物ノ買入ノ免許ヲ受ケタル者ニ對シ其ノ業務及財産ノ狀況ニ關シ報告ヲ徵シ又ハ檢査ヲ爲スコトヲ得

政府ハ金鑛業者、金製錬業者又ハ第三條第一項ノ規定ニ依リ含金鑛産物ノ買入ノ免許ヲ受ケタル者ニ對シ其ノ業務及會計ニ關シ監督上必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第十一條　政府ハ必要アリト認ムルトキハ金ノ價格又ハ金ノ使用ノ制限其ノ他金ノ使用ニ關シ必要ナル命令ヲ發スルコトヲ得

第十二條　政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ金貨幣、金地金、金ノ合金又ハ金ヲ主タル材料トスル物ノ取得、處分又ハ保有ニ關シ報告ヲ徵シ又ハ檢査ヲ爲スコトヲ得

第十三條　鑛業法第五十條乃至第七十條、第九十二條、第九十三條、第九十九條第一項、第百三條及第百四條ノ規定ハ金鑛業者ニ非ザル金製錬業者ニ關シ之ヲ準用ス

第十四條　政府第二條、第六條、第八條第一項、第九條又ハ第十一條ノ規定ニ依ル命令ヲ爲サントスルトキハ金委員會ノ議ヲ經ベシ

金委員會ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十五條　金鑛業者又ハ金製錬業者其ノ事業ノ爲必要ナル器具、機械其ノ他ノ材料ヲ政府ノ認可ヲ受ケ輸入スルトキハ本法施行ノ日ヨリ五年間命令ノ定ムル所ニ依リ輸入税ヲ免除ス

第十六條　政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ金鑛業者及金製錬業者ニ對シ奬勵金ヲ交付スルコトヲ得

第十七條　詐欺ノ行爲ヲ以テ前條ノ奬勵金ノ交付ヲ受ケタル者ニ對シテハ其ノ金額ノ返還ヲ命ズ

前項ノ規定ニ依ル返還金ハ國税滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ徴收スルコトヲ得但シ先取特權ノ順位ハ國税ニ次グモノトス

第十八條　金製錬業者又ハ第三條第一項ノ規定ニ依リ含金鑛産物ノ買入ノ免許ヲ受ケタル者本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シ又ハ政府ノ命ジタル事項ヲ執行セザルトキハ政府ハ其ノ業務ヲ停止シ若ハ制限シ、第三條第一項ノ許可ヲ取消シ又ハ法人ノ役員ノ解任ヲ爲スコトヲ得

第十九條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス但シ當該金地金又ハ含金鑛産物ノ價額ノ三倍ガ五千圓ヲ超ユルトキハ罰金ハ其ノ價額ノ三倍以下トス

一　第一條第一項ノ規定ニ基キテ發スル命令ニ違反シテ金地金ヲ政府ニ賣却セザル者

二　第一條第一項ノ規定ニ違反シテ金地金ヲ政府以外ノ者ニ讓渡シタル者

三　第一條第一項ノ規定ニ違反シテ金製錬業者及第三條第一項ノ規定ニ依リ含金鑛産物ノ買入ノ免許ヲ受ケタル者以外ノ者ニ含金鑛産物ヲ讓渡シタル者

四　第三條第一項ノ規定ニ違反シテ含金鑛産物ヲ買入レ又ハ同條第三項ノ規定ニ違反シテ之ヲ讓受ケタル者

第二十條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

一　第二條第一項ノ規定ニ依ル命令ニ違反シテ含金鑛産物ヲ政府ノ指定シタル者以外ノ者ニ讓渡シタル者

二　第三條第一項ノ規定ニ違反シテ金ノ製錬ヲ爲シタル者

三　第九條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者

四　第十一條ノ規定ニ基キテ發スル命令ニ違反シタル者

第二十一條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

一　第四條第一項ノ規定ニ違反シテ事業ヲ廢止シ又ハ休止シタル者

二　第五條第一項又ハ第七條第一項ノ規定ニ違反シテ事業計畫ノ屆出ヲ爲サズ又ハ屆出デタル事業計畫ヲ實施セザル者

三　第五條第二項又ハ第七條第二項ノ規定ニ依ル變更命令ニ違反シテ事業計畫ヲ實施シタル者

日本標準規格B4判(十一行全)(富井納)

四　第六條又ハ第八條第一項ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者

第二十二條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

一　第四條第三項ノ規定ニ違反シテ屆出ヲ爲サザル者

二　第十條第一項又ハ第十二條ノ規定ニ依ル報告ヲ爲サズ、虛僞ノ報告ヲ爲シ又ハ檢査ヲ拒ミ、妨ゲ若ハ忌避シタル者

三　第十條第二項ノ規定ニ依ル命令又ハ處分ニ違反シタル者

第二十三條　法人ノ代表者又ハ法人若ハ人ノ代理人、使用人其ノ他ノ從業者ガ其ノ法人又ハ人ノ業務ニ關シテ第十九條乃至前條ノ違反行爲ヲ爲シタルトキハ行爲者ヲ罰スルノ外其ノ法人又ハ人ニ對シ亦第十九條乃至前條ノ罰金刑ヲ科ス

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法施行ノ際現ニ含金鑛產物ヲ所有スル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ本法施行ノ日ニ之ヲ取得シタル者ト看做ス

本法施行ノ際現ニ金製錬業ヲ營ム者又ハ其ノ事業ヲ承繼シタル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ本法施行ノ日ヨリ二月ヲ限リ第三條第一項ノ規定ニ拘ラズ其ノ事業ヲ營ムコトヲ得

前項ニ揭グル者前項ノ期間內ニ金製錬業ノ免許ヲ申請シタル場合ニ於テ其ノ申請ニ對スル許否ノ處分ノ日迄亦前項ニ同ジ

参照

第九章　資本移動

●外國爲替管理法

昭和八年三月二十九日
法律第二十八號

改正　昭和一二年第八一號、第八七號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル外國爲替管理法ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

（總理、大藏、商工、拓務大臣副署）

外國爲替管理法

第一條　政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ左ニ揭グル取引又ハ行爲ヲ禁止又ハ制限スルコトヲ得

一　外國通貨又ハ外國爲替ノ取得又ハ處分

二　通貨、金地金、金ノ合金若ハ金ヲ主タル材料トスル物ノ輸出又ハ金貨幣ノ鑄潰又ハ毀傷

三　外國ニ對スル送金ニシテ前二號ニ包含スル方法ニ依ラザルモノ

四　外國ニ於テ爲シタル委託ニ基キ本邦内ニ於テ爲ス支拂

五　外國爲替相場ノ取極

六　外國通貨ヲ以テ表示スル證券、債權又ハ債務ノ取得又ハ處分

七　本邦通貨ヲ以テ表示スル外國居住者ニ對スル債權又ハ債務ノ取得又ハ處分

八　信用狀ノ發行又ハ取得

九　外國居住者ニ信用ヲ與フル行爲

十　證券ノ輸出又ハ輸入

十一　價額ノ全部又ハ一部ニ付外國爲替ヲ取組マザル貨物ノ輸出又ハ輸入

十二　外國ニ在ル財産ニシテ第一號、第六號又ハ第七號ニ揭ゲザルモノノ取得又ハ處分

第二條　政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ前條ノ禁止若ハ制限又ハ第四條ノ處分命令ニ關シ必要ナル事項ニ付報告ヲ徵シ又ハ帳簿其ノ他ノ檢査ヲ行フコトヲ得

第三條　政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ外國爲替ニ關スル取引ヲ日本銀行其ノ他政府ノ指定スル者ヲ相手方トスル場合ニ限定スルコトヲ得

第四條　政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ左ニ揭グル財産ヲ有スル者ニ對シ之ヲ日本銀行其ノ他政府ノ指定スル者ニ賣却シ其ノ他之ニ關シ必要ナル處分ヲ爲スベキコトヲ命ズルコトヲ得

一　金地金、外國通貨又ハ外國爲替

二　外國通貨ヲ以テ表示スル證券若ハ債權又ハ本邦通貨ヲ以テ表示スル外國居住者ニ對スル債權

三　外國ニ在ル財産ニシテ前二號ニ揭ゲザルモノ

前項ノ規定ニ依リ政府ノ指定スル者ニ賣却スベキコトヲ命ジタル場合ノ賣却價額ハ外貨評價委員會ノ定ムル所ニ依ル

外貨評價委員會ノ組織及權限ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第五條　第一條又ハ第三條ノ規定ニ基キテ發スル命令ヲ以テ規定スル取引又ハ行爲ノ禁止又ハ制限ニ違反シタル者ハ三年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ一萬圓以下ノ罰金ニ處ス但シ當該取引又ハ行爲ノ目的物ノ價額ノ三倍ガ一萬圓ヲ超ユルトキハ罰金ハ當該價額ノ三倍以下トス

第一條ノ規定ニ基キテ發スル命令ニ違反シ金貨幣、金地金、金ノ合金又ハ金ヲ主タル材料トスル物ヲ輸出スル目的ヲ以テ牧得シ又ハ輸出セントシタル者亦前項ニ同ジ

前條ノ規定ニ基キテ發スル命令ニ依ル金地金其ノ他ヲ處分シ又ハ賣却スベキ旨ノ政府ノ命ニ從ハザル者ハ一年以下ノ禁錮又ハ當該金地金其ノ他ノ價額ノ二倍以下ノ罰金ニ處ス

第二條ノ規定ニ基キテ發スル命令ニ違反シ報告ヲ爲サズ、虛僞ノ報告ヲ爲シ、帳簿其ノ他ノ檢査ヲ拒ミ又ハ帳簿書類ノ隱蔽不實ノ申立其ノ他ノ方法ニ依リ檢査ヲ妨ゲタル者ハ六月以下ノ禁錮又ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ政府ニ提出スル許可ノ申請書其ノ他ノ書類ニ虛僞ノ記載ヲ爲シタル者亦同ジ

第六條　法人ノ代表者又ハ法人若ハ人ノ代理人、使用人其ノ他ノ從業者ガ其ノ法人又ハ人ノ業務ニ關シテ前條ノ違反行爲ヲ爲シタルトキハ行爲者ヲ罰スルノ外其ノ法人又ハ人ニ對シ亦前條ノ罰金刑ヲ科ス

第七條　本法ノ罰則ハ本法施行地ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人ノ代表者、代理人、使用人其ノ他ノ從業者ガ本法施行地外ニ於テ爲シタル行爲ニモ之ヲ適用ス本法施行地ニ住所ヲ有スル人又ハ其ノ代理人、使用人其ノ他ノ從業者ガ本法施行地外ニ於テ爲シタル行爲ニ付亦同ジ

第八條　本法ノ施行ニ關スル重要事項ニ付主務大臣ノ諮問ニ應ズル爲外國爲替管理委員會ヲ置ク

外國爲替管理委員會ノ組織及權限ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

（昭和八年勅令第六十五號ヲ以テ昭和八年五月一日ヨリ施行）

資本逃避防止法ハ之ヲ廢止ス

本法施行前舊法ノ罰則ヲ適用スベカリシ行爲ニ付テハ仍舊法ニ依ル

昭和八年四月二十六日
勅令第六十六號

朕外國爲替管理法ヲ朝鮮、臺灣及樺太ニ施行スルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、拓務大臣副署）

外國爲替管理法ハ之ヲ朝鮮、臺灣及樺太ニ施行ス

附　則

本令ハ昭和八年五月一日ヨリ之ヲ施行ス

〔韓七九〕

産金法中改正法律案

産金法中左ノ通改正ス

第十一條ノ二　政府ハ必要アリト認ムルトキハ左ニ掲グル物ヲ所有スル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ之ガ處分ニ關シ禁止若ハ制限ヲ爲シ又ハ之ヲ政府若ハ政府ノ指定スル者ニ賣却スベキコトヲ命ズルコトヲ得

一　金地金

二　金ノ合金ニシテ命令ノ定ムル種類ノモノ

三　金ヲ主タル材料トスル物ニシテ命令ノ定ムル種類ノモノ

政府ハ必要アリト認ムルトキハ金貨幣ヲ所有スル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ之ガ處分ニ關シ禁止若ハ制限ヲ爲シ又ハ之ヲ鑄潰シ依リテ得タル金地金ヲ政府若ハ政府ノ指定スル者ニ賣却スベキコトヲ命ズルコトヲ得

第十一條ノ三　前條ノ規定ニ依リテ政府ノ爲ス金地金、金ノ合金又ハ金ヲ主タル材料トスル物ノ買入ハ金資金ノ運用ニ屬スルモノトス

第十一條ノ四　第十一條ノ二ノ規定ニ依リ政府又ハ政府ノ指定スル者ニ賣却スベキコトヲ命ジタル場合ノ賣却價額ハ金地金ニ在リテハ其ノ物ノ中ニ含マルル金ノ純量ニ付第一條第一項ノ規定ニ依リ政府ガ金地金ヲ買上グル場合ノ買上價格ニ依リ算出シタル金額トシ金ノ合金又ハ金ヲ主タル材料トスル物ニ在リテハ金委員會ノ定ムル所ニ依ル

第十一條ノ五　第十一條ノ二第一項第三號ノ規定ニ依リ金ヲ主タル材料トスル物ヲ政府又ハ政府ノ指定スル者ニ賣却スベキコトヲ命ジタル場合ニ於テ其ノ物ガ美術品骨董品工藝品其ノ他ノ物ニシテ鑄潰スルコトヲ適當トセザルモノナルトキハ其ノ物ヲ所有スル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ許可ヲ受ケ之ヲ賣却セザルコトヲ得

第十四條中「又ハ第十一條」ヲ「第十一條又ハ第十一條ノ二」ニ改ム